



ユーザースマニュアル

SmartAXIS FT2J形

**MICRO/I HG2J形、HG5G/4G/3G/2G-V形、
HG4G/3G形、HG2G-5F/-5T形、HG1G/1P形**

FC6A/5A/4A形 MICROSmart

改定履歴

2017年8月	初版発行
2018年4月	第2版発行
2018年12月	第3版発行
2019年3月	第4版発行
2020年2月	第5版発行
2022年3月	第6版発行
2024年2月	第7版発行

ご注意

- ・本書およびWindEDIT Liteのプログラムに関するすべての権利は、IDEC株式会社に帰属しています。弊社に無断で複製することはできません。
- ・本書およびWindEDIT Liteのプログラムの内容は予告なく変更することがあります。
- ・本書およびWindEDIT Liteを運用した結果の影響につきましては、弊社は一切責任を負いませんのでご了承ください。
- ・製品の内容につきましては万全を期しておりますが、ご不審の点や誤りなど、お気づきの点がございましたら、お買い求めの販売店または弊社の問い合わせ窓口までご連絡ください。

商標について

- ・Bluetooth[®]のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc.が所有する登録商標であり、IDEC株式会社はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。
- ・Apple、Appleのロゴ、iPhone、iPad、iPodは、米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。
- ・App StoreはApple Inc.のサービスマークです。
- ・iPhone商標は、アイホン株式会社のライセンスに基づき使用されます。
- ・Google Play、Google Playロゴ、Android、Androidロゴは、Google Inc.の商標または登録商標です。
- ・AdobeはAdobe System Incorporatedの商標です。
- ・記載されているその他の会社名、製品名は、各社の商標または登録商標です。

はじめに

本書は、WindEDIT Liteの機能や設定方法、注意事項などについて説明したものです。

本書をよくお読みいただき、WindEDIT Liteの機能および性能をご理解のうえ、正しくご使用くださいますようお願い致します。また、いつでもお読みいただけるよう大切に保管してください。

本書の表記について

本書では、説明を簡潔にするために次の記号や用語を使用しています。

記号



……… 特に注意しなければならない事項を記載しています。このマークがついている箇所では操作を誤ると、大きな影響が出る場合があります。



……… その機能を利用するうえでお願いしたいことや参考にさせていただきたい情報を記載しています。



……… その機能を利用するうえで知っていると役に立つ情報を記載しています。



……… 関連情報の参照箇所を示しています。

[OK] …… ボタンと同じ機能の画面上のタップ可能な項目は [] で囲んで表しています。画面に表示されるアイコンと同じ形のグラフィックを貼りつけている場合もあります。

[****] …… コントロール名は [] で囲んで表しています。

本書で使う略語、総称、用語

項目	内容
SmartAXIS	表示器一体形コントローラFT2J形の総称です。
MICROSmart	プログラマブルコントローラFC6A形、FC5A-D12X1Eの総称です。
MICRO/I	プログラマブル表示器HG2J形、HG5G/4G/3G/2G-V形、HG4G/3G形、HG2G-5F/-5T形、HG1G/1P形の総称です。
接続機器	SmartAXISやMICRO/Iと常時接続、通信するPLCやマイコンの総称です。
デバイス アドレス	SmartAXIS、MICROSmart、MICRO/Iおよび接続機器が搭載しているビット単位もしくはワード単位の値を格納することができるメモリのことです。
WindO/I-NV4	SmartAXISやMICRO/Iの画面を作成する作画ソフトウェアです。
WindLDR	SmartAXISやMICROSmartのラダープログラムを作成するプログラミングソフトウェアです。
プロジェクト データ	WindO/I-NV4で作成されるSmartAXISやMICRO/Iを動作させるための画面データ含むすべてのデータのことです。拡張子は*.pn4です。
ZNVプロジェクト ファイル	プロジェクト データを基にWindO/I-NV4のダウンロード機能、またはデータ ファイル マネージャーのアップロード機能を用いて作成するファイルです。プロジェクト データ、システムソフトウェアが含まれます。拡張子は.znvです。
ZNXプロジェクト ファイル	プロジェクト データを基にWindO/I-NV4のダウンロード機能を用いて作成するファイルです。プロジェクトデータ、システムソフトウェア、OSが含まれます。拡張子は.znxです。このファイルは、SmartAXISやMICRO/IのOSを含むためアップロードできません。
ZLDプロジェクト ファイル	WindLDRで作成されるMICROSmartを動作させるためのユーザープログラム（ラダープログラム）を含むファイルのことです。拡張子は.zldです。
外部メモリ	SDメモリカードおよびUSBメモリの総称です。
HMI機能	WindO/I-NV4で作成するSmartAXISの画面や設定による機能のことです。
コントロール機能	WindLDRで作成するSmartAXISのラダープログラムや設定による制御機能のことです。

目次

改定履歴	序-1
ご注意	序-1
商標について	序-1
はじめに	序-2
本書の表記について	序-2
本書で使う略語、総称、用語	序-2

第1章 WindEDIT Liteの機能と基本操作

1	WindEDIT Liteの仕様	1-1
	1.1 対応機種	1-1
	1.2 対応OS	1-1
	1.3 WindEDIT Liteでできること	1-2
2	インストールと起動	1-3
	2.1 WindEDIT Liteのインストール	1-3
	2.2 WindEDIT Liteの起動	1-4
	2.3 接続設定画面	1-8
3	お知らせ画面	1-19
4	アプリ内フォルダーの管理	1-20
	4.1 アプリ内フォルダーの管理画面	1-20
5	ヘルプ画面	1-22

第2章 PLC接続時の使いかた

1	メイン画面	2-1
	1.1 メイン画面	2-1
2	ステータスの表示	2-3
3	ファイルやフォルダーの表示と操作	2-4
	3.1 ファイルやフォルダーを選択する	2-4
	3.2 ファイルやフォルダーをダウンロードする	2-5
	3.3 ファイルやフォルダーをアップロードする	2-7
4	PLCの運転状態を変更する	2-9
	4.1 スタート/ストップ操作	2-9
5	ダウンロード	2-10
	5.1 ZLDプロジェクト ファイルをダウンロードする	2-10
	5.2 システムソフトウェアをダウンロードする	2-11
6	アップロード	2-13
	6.1 ZLDプロジェクト ファイルをアップロードする	2-13
7	SDメモリカードのフォーマット	2-14
8	デバイスアドレス モニタ	2-15
	8.1 デバイスアドレス モニタ画面	2-15
	8.2 デバイスアドレスをモニタする	2-17
9	登録モニタ	2-20
	9.1 登録モニタ画面	2-20
	9.2 デバイスアドレスをモニタする	2-21

第3章 プログラマブル表示器接続時の使いかた

1	メイン画面	3-1
1.1	メイン画面	3-1
2	ステータスの表示.....	3-3
3	ファイルやフォルダーの表示と操作.....	3-5
3.1	ファイルやフォルダーを選択する	3-5
3.2	ファイルやフォルダーをダウンロードする	3-6
3.3	ファイルやフォルダーをアップロードする	3-8
4	ラダー プログラムのRUN/STOP状態を切り替える.....	3-10
4.1	RUN/STOP操作	3-10
5	ダウンロード	3-11
5.1	ZNVプロジェクト ファイルを接続先の機器へダウンロードする	3-11
5.2	ZNXプロジェクト ファイルを接続先の機器へダウンロードする	3-13
5.3	ファイルを接続先の機器に挿入した外部メモリへダウンロードする	3-15
6	アップロード	3-16
6.1	ZNVプロジェクト ファイルを接続先の機器からアップロードする	3-16
6.2	履歴データをアップロードする	3-17
6.3	接続先の機器に挿入した外部メモリのファイルをアップロードする	3-18
7	クリア	3-20
7.1	接続先の機器のデータをクリアする	3-20
7.2	接続先の機器に挿入した外部メモリのデータを消去する	3-22
8	外部メモリのフォーマット	3-23
9	デバイス アドレス モニタ	3-24
9.1	デバイス アドレス モニタ画面	3-24
9.2	デバイス アドレスをモニタする	3-27

索引

第1章 WindEDIT Liteの機能と基本操作

この章では、WindEDIT Liteの対応機種や機能、インストールと起動方法などについて説明します。

1 WindEDIT Liteの仕様

1.1 対応機種

WindEDIT Liteに対応しているIDEC社製PLCおよびプログラマブル表示器は、次のとおりです。

WindEDIT Liteでの名称	シリーズ名	略称	形番
PLC	MICROSmart	FC6A形	FC6A-C16***E、FC6A-C24***E、FC6A-C40***E、FC6A-C40***EJ、FC6A-D16**CEE、FC6A-D32**CEE
プログラマブル表示器	SmartAXIS	FT2J形	FT2J-7U22RAF-B、FT2J-7U22KAF-B、FT2J-7U22SAF-B
	MICRO/I	HG2J形	HG2J-7UT22TF-B
		HG5G/4G/3G-V形	HG5G-VFXT22MF-B、HG4G-VCXT22MF-B、HG3G-V*XT22MF-*
		HG2G-V形	HG2G-V5FT22TF-*
		HG2G-5T形	HG2G-5T*22TF-*
		HG1G形	HG1G-4VT22TF-*
		HG1P形	HG1P-ST32*
		HG4G/3G形	HG4G-CJT22*F-B、HG3G-*JT22*F-*
HG2G-5F形	HG2G-5FT22TF-*		



• FC6A-C16***E、FC6A-C24***E、FC6A-C40***E、FC6A-C40***EJをWindEDIT Liteで使用する場合は、システム ソフトウェアのバージョン1.5.0以降を使用してください。

• MICRO/IをWindEDIT Liteで使用する場合は、システム ソフトウェアのバージョン4.55以降を使用してください。

1.2 対応OS

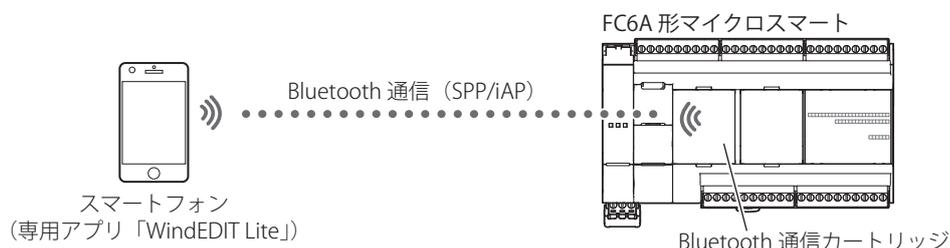
WindEDIT Liteに対応しているOSとバージョンは、次のとおりです。

OS	バージョン
iOS	14以降
Android	8以降

1.3 WindEDIT Liteでできること

WindEDIT Liteは、IDEC製PLCおよびプログラマブル表示器と接続して、iOSまたはAndroid上で動作するアプリケーションソフトウェアです。スマートフォンとIDEC製PLCおよびプログラマブル表示器を接続できます。

例) Bluetooth通信を使用して、スマートフォンとFC6A形マイクロスマートをメンテナンス通信する場合



イーサネット通信を使用して接続することもできます。

PLCの通信設定については、FC6A形マイクロスマート通信マニュアルを参照してください。

プログラマブル表示器の通信設定については、WindO/I-NV4ユーザーズマニュアルを参照してください。

WindEDIT Liteでは、次の機能が使用できます。

機能	MICROSmart	SmartAXIS	MICRO/I	
	FC6A形	FT2J形	HG2J形	HG5G/4G/3G/2G-V形、 HG4G/3G形、 HG2G-5F/-5T形、 HG1G/1P形
PLCの運転状態やラダープログラムのRUN/STOP状態を変更する	○	○	×	×
ZLDプロジェクトファイル(.zld)をダウンロードまたはアップロード	○	×	×	×
ZNVプロジェクトファイル(.znv)をダウンロードまたはアップロード	×	○	○	○※1
ZNXプロジェクトファイルのダウンロード	×	○	○	×
システムソフトウェアをダウンロード	○	×	×	×
ファイルやフォルダーを外部メモリへダウンロード	○	○	○	○
外部メモリからファイルやフォルダーをアップロード	○	○	○	○
デバイスアドレスモニタ	○	○	○	○
登録モニタ	○	×	×	×
内蔵メモリや外部メモリのデータをクリア	○※2	○	○	○
外部メモリのフォーマット	○	×	×	○
外部メモリのファイルやフォルダーの表示や操作	○	○	○	○
ステータスやシステム情報の表示	○	○	○	○

※1 WindO/I-NV4で作成したプロジェクトのみ対応、WindO/I-NV2で作成したものは対応していません

※2 内蔵メモリのみ

2 インストールと起動

1

2.1 WindEDIT Liteのインストール



データ通信サービスを利用してアプリをダウンロードする場合は、別途/パケット通信料が必要になる場合があります。

1 次の操作で、WindEDIT Liteをインストールします。

■ **iOS**

App Storeの検索欄に「WindEDIT Lite」と入力します。

■ **Android**

Google Playの検索欄に「WindEDIT Lite」と入力します。

2 WindEDIT Liteのインストールを完了します。

2.2 WindEDIT Liteの起動

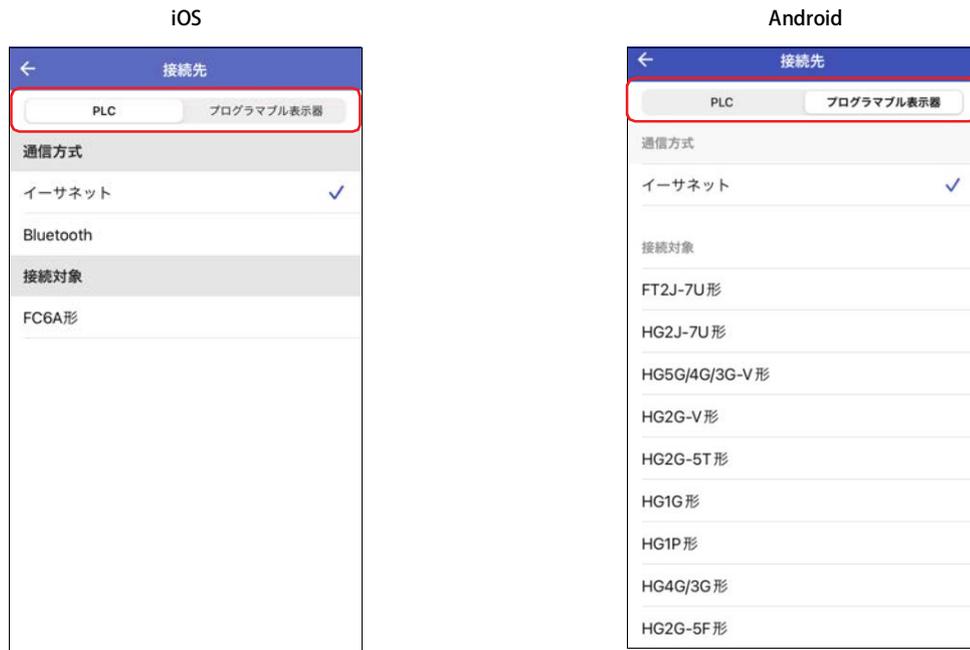
- PLCおよびプログラマブル表示器とイーサネット通信で接続する場合は、PLCおよびプログラマブル表示器を接続しているネットワークにスマートフォンをWi-Fi接続しておいてください。
- PLCとBluetooth通信で接続する場合は、スマートフォンのBluetooth機能をオンにしておいてください。

- 1 ホーム画面を表示し、 (WindEDIT Lite) アイコンをタップします。
接続設定画面が表示されます。
- 2 [接続先] で接続先の機器と通信方式を選択します。
表示されている内容を変更する場合は、[接続先] の設定内容をタップします。接続先画面が表示されます。
変更しない場合は、手順6へ進みます。



3 接続先の機器を選択します。

スマートフォンとPLCを接続する場合は“PLC”、プログラマブル表示器を接続する場合は“プログラマブル表示器”をタップします。



以降の説明は、iOSの画面イメージになります。

4 [通信方式] で“イーサネット”または“Bluetooth”^{※1}をタップします。

“PLC”を選択した場合



“プログラマブル表示器”を選択した場合



5 ◀ (戻る) をタップします。

接続設定画面に戻ります。

※1 [接続先] で“PLC”を選択した場合のみ

6 通信方式を設定します。

表示されている内容を変更する場合は、[イーサネット通信設定]または[Bluetooth通信設定]の設定内容をタップします。通信先一覧画面または通信先Bluetoothデバイス一覧画面が表示されます。

詳細は、1-10ページ「通信先一覧画面」または1-15ページ「通信先Bluetoothデバイス一覧画面」を参照してください。変更しない場合は、手順9へ進みます。

[通信方式] で“イーサネット”を選択した場合



[通信方式] で“Bluetooth”を選択した場合



プログラマブル表示器接続時の [接続先] は“プログラマブル表示器”と表示されます。

7 通信先一覧画面または通信先Bluetoothデバイス一覧画面で接続先をタップします。

選択した接続先の右端に ✓ (チェックマーク)が表示されます。



8 ← (戻る) をタップします。

接続設定画面に戻ります。



9  (接続) をタップします。



PLCにWindEDIT Lite用の接続アカウント（ユーザーとパスワード）を設定している場合は、[接続アカウント] にパスワードを入力してください。

接続先の機器に接続後、WindEDIT Liteのメイン画面が開きます。



2.3 接続設定画面

接続先の機器と通信方式を設定します。

[通信方式] で“イーサネット”を選択した場合



[通信方式] で“Bluetooth”を選択した場合



■ 接続先

接続先の機器と接続先の機器との通信方式が表示されます。

設定内容をタップすると、接続先画面が表示され、接続先の機器と通信方式を設定できます。接続先画面で接続先の機器を“PLC”または“プログラマブル表示器”から、接続先の機器との通信方式を“イーサネット”または“Bluetooth”^{※1}から選択します。

■ イーサネット通信設定

[通信方式] で“イーサネット”を選択した場合のみ設定できます。設定内容をタップすると、通信先一覧画面が表示され、通信方式の詳細を設定できます。詳細は、1-10ページ「通信先一覧画面」を参照してください。

IPアドレス/ホスト名： 接続先の機器のIPアドレスまたはホスト名が表示されます。

ポート番号 (メンテナンス通信)： メンテナンス通信で使用する接続先の機器のポート番号が表示されます。

ポート番号 (Webサーバー)： Webサーバー機能で使用する接続先の機器のポート番号が表示されます。

コメント： 接続先の機器のコメントが表示されます。

■ Bluetooth通信設定^{※1}

[通信方式] で“Bluetooth”を選択した場合のみ設定できます。設定内容をタップすると、通信先Bluetoothデバイス一覧画面が表示され、接続先の機器を設定できます。詳細は、1-15ページ「通信先Bluetoothデバイス一覧画面」を参照してください。

Bluetoothデバイス： 接続先の機器のデバイス名が表示されます。

コメント： 接続先の機器に設定したコメントが表示されます。

※1 [接続先] で“PLC”を選択した場合のみ

■ 接続アカウント※1

PLCにWindEDIT Lite用の接続アカウント（ユーザーとパスワード）を設定している場合は、ユーザー名をタップし、表示された接続アカウントでユーザー名とパスワードを入力します。

接続アカウントは、WindLDRの「ファンクション設定」で設定します。アカウントの権限を「読み取り専用」に設定すると、次の処理を実行できません。

- ・ZLDプロジェクト ファイル(.zld)のダウンロード
- ・システム ソフトウェアのダウンロード
- ・ファイルやフォルダーを外部メモリへダウンロード
- ・デバイス アドレス モニタでの書き込み
- ・内蔵メモリや外部メモリのデータのクリア
- ・外部メモリのフォーマット
- ・フォルダーの新規作成
- ・ファイルやフォルダーの名前の変更
- ・ファイルやフォルダーの削除

接続アカウントの設定手順は、FC6A形マイクロスマート通信マニュアル「第9章 Bluetooth通信」の「ユーザーアカウント設定」を参照してください。

■ (接続)

接続先の機器と接続し、WindEDIT Liteのメイン画面を表示します。

■ (お知らせ)

お知らせ画面が表示されます。詳細は、1-19ページ「3 お知らせ画面」を参照してください。

■ (アプリ内フォルダーの管理)

アプリ内フォルダーの管理画面が表示されます。詳細は、1-20ページ「4 アプリ内フォルダーの管理」を参照してください。

■ (ヘルプ)

ヘルプ画面が表示されます。詳細は、1-22ページ「5 ヘルプ画面」を参照してください。

※1 [接続先] で“PLC”を選択した場合のみ

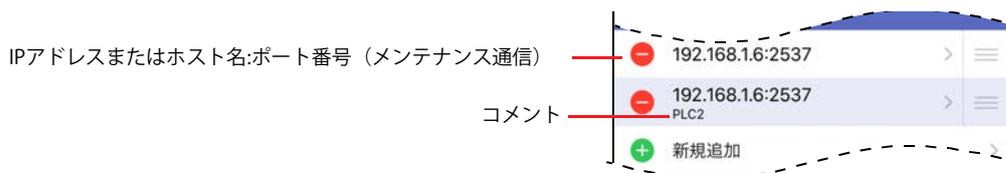
● 通信先一覧画面

イーサネット通信で接続する機器を一括管理します。



■ (通信先)

イーサネット通信で接続する登録済みの機器が一覧表示されます。接続先に設定されている機器に ✓ (チェックマーク) が表示されます。



IPアドレスまたはホスト名: 接続先の機器のIPアドレスまたはホスト名が表示されます。デフォルトは、接続先の機器によって異なります。

PLC: 192.168.1.5

プログラマブル表示器: 192.168.1.6

ポート番号 (メンテナンス通信): 接続先の機器のポート番号が表示されます。デフォルトは、接続先の機器によって異なります。

PLC: 2101

プログラマブル表示器: 2537

コメント: 接続先の機器に設定したコメントが表示されます。

■ (編集)

通信先一覧画面に接続先の機器を追加、変更または削除します。タップすると、編集モードに切り替わります。詳細は、1-11ページ「接続先の機器を追加または変更する」または1-13ページ「接続先の機器を削除する」を参照してください。

■ (検索) ※1

イーサネット通信で接続できる同一ネットワーク上のプログラマブル表示器を検索します。タップすると、プログラマブル表示器の検索画面が表示されます。

詳細は、1-14ページ「プログラマブル表示器の検索画面」を参照してください。

※1 [接続先] で“プログラマブル表示器”を選択した場合のみ

接続先の機器を追加または変更する

- 1 通信先一覧画面で  (編集) をタップします。
編集モードに切り替わります。



- 2 イーサネット通信で接続する機器を追加する場合は [新規追加] をタップします。
変更する場合はIPアドレスまたはホスト名をタップします。
通信先設定画面が表示されます。



- 3 [IPアドレス/ホスト名] をタップします。
IPアドレス/ホスト名ウィンドウが表示されます。



- 4 接続先の機器のIPアドレスまたはホスト名を入力し、[OK] をタップします。
入力形式は“xxx.xxx.xxx.xxx”となります。“xxx”には0から255までの値を入力します。



- 5 [ポート番号 (メンテナンス通信)] をタップします。
ポート番号ウィンドウが表示されます。



6 接続先の機器のポート番号 (0~65535) を入力し、[OK] をタップします。



ポート番号 (Webサーバー)を編集する

- ①[ポート番号 (Webサーバー)]をタップします。
ポート番号 (Webサーバー)ウィンドウが表示されます



- ②接続先の機器のWebサーバー用ポート番号 (0~65535) を入力し、[OK]をタップします。

コメントを編集する

- ①[コメント]をタップします。
コメント ウィンドウが表示されます。



- ②コメントを入力し、[OK] をタップします。
最大文字数は半角で80文字です。

7 [OK] をタップします。

接続先の機器が追加または変更され、通信先一覧画面に戻ります。



8 [X] (閉じる) をタップします。 編集モードを終了します。



接続先の機器を削除する

- 1 通信先一覧画面で  (編集) をタップします。
編集モードに切り替わります。



- 2 削除する接続先の左にある  (削除) をタップします。
[削除] が表示されます。



- 3 [削除] をタップします。
接続先がリストから削除されます。



- 4  (閉じる) をタップします。
編集モードを終了します。



● プログラマブル表示器の検索画面



■ (結果一覧)

検索して見つかったプログラマブル表示器のIPアドレスが表示されます。通信先一覧画面に追加するプログラマブル表示器を選択します。



IPアドレスを長押しすると、プログラマブル表示器の情報がウィンドウに表示されます。

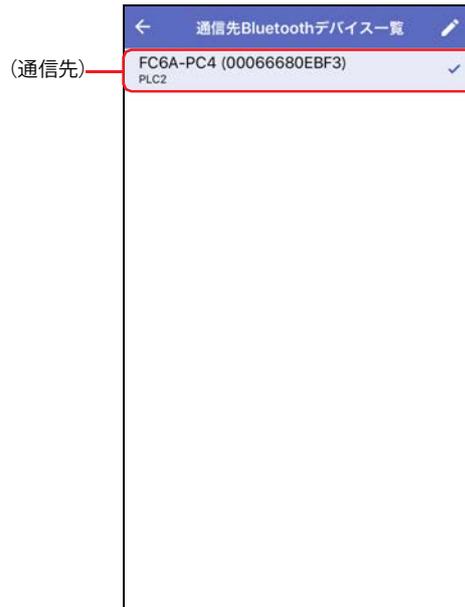


■ (再検索)

同一ネットワーク上のプログラマブル表示器を再検索します。

● 通信先Bluetoothデバイス一覧画面

Bluetooth通信で接続する機器を一括管理します。



■ (通信先)

ペアリング済みのBluetooth機器が一覧表示されます。接続先に設定されている機器に ✓ (チェックマーク) が表示されます。



デバイス名： ペアリング済みのBluetooth機器のBluetoothデバイス名が表示されます。

コメント： ペアリング済みのBluetooth機器のコメントが表示されます。

■ (編集)

通信先Bluetoothデバイス一覧画面に接続先の機器を追加または削除します。タップすると、編集モードに切り替わります。詳細は、1-16ページ「接続先の機器を追加する」または1-18ページ「接続先の機器を削除する」を参照してください。

接続先の機器を追加する

- 1 接続設定画面で [Bluetooth通信設定] の [Bluetoothデバイス] をタップします。
通信先Bluetoothデバイス一覧画面が空白の場合は、確認メッセージが表示されます。既存の機器がある場合は、編集モードに切り替わります。



- 2 確認メッセージが表示された場合は、[設定] をタップします。編集モードに切り替わった場合は、[新規追加] をタップします。
スマートフォンの設定画面が表示されます。スマートフォンとBluetooth機器をペアリングします。





コメントを編集する

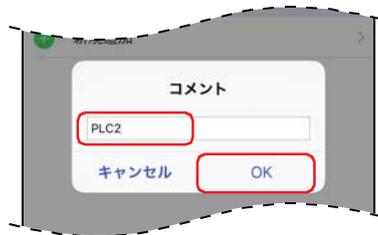
- ①通信先Bluetoothデバイス一覧画面で  (編集) をタップします。
編集モードに切り替わります。



- ②Bluetoothデバイス名の右にある[>]をタップします。
コメント ウィンドウが表示されます。



- ③コメントを入力し、[OK] をタップします。
最大文字数は半角で80文字です。



- ④  (閉じる) をタップします。
編集モードを終了します。



接続先の機器を削除する

- 1 通信先Bluetoothデバイス一覧画面で  (編集) をタップします。
編集モードに切り替わります。



- 2 削除する接続先の左にある  (削除) をタップします。
[削除] が表示されます。



- 3 [削除] をタップします。
接続先の機器がリストから削除されます。

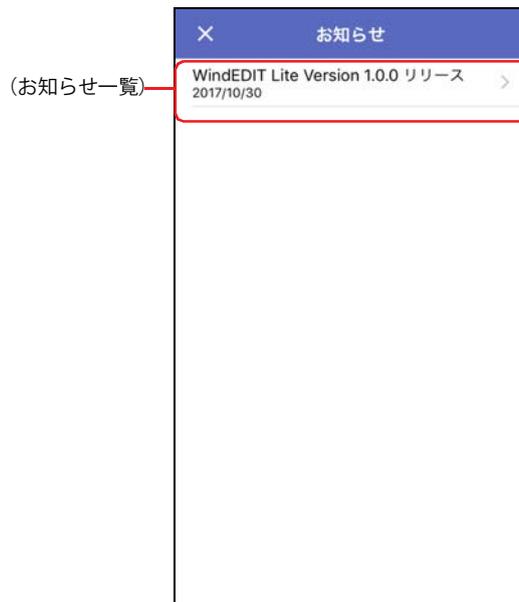


- 4  (閉じる) をタップします。
編集モードを終了します。



3 お知らせ画面

IDECが配信するWindEDIT LiteやAutomationOrganizerに関するお知らせが表示されます。



(お知らせ一覧) で各項目をタップすると、詳細が表示されます。



お知らせ一覧および詳細を表示するには、スマートフォンがインターネットに接続されている必要があります。

4 アプリ内フォルダーの管理

4.1 アプリ内フォルダーの管理画面

WindEDIT Lite内のファイルやフォルダーを一覧表示します。

フォルダーの追加や削除、名前の変更ができます。

また、スマートフォンの他のアプリへファイルやフォルダーをエクスポートしたり、他のアプリからファイルやフォルダーをインポートすることができます。



WindEDIT Lite内のファイルやフォルダーは、WindEDIT Liteでのみ表示や操作ができます。他のアプリやパソコンからアクセスすることはできません。WindEDIT Liteをアンインストールすると、WindEDIT Lite内のファイルやフォルダーも削除されます。

● 通常モード

フォルダーをタップすると、フォルダー内の階層（上位、下位）に移動します。

■ < (戻る)

画面タイトルの左にあるアイコンをタップすると、1つ前の画面に戻ります。

■ 選択

画面タイトルの右にある文字をタップすると、選択モードに切り替わります。

■ 操作メニュー

画面下部のアイコンをタップして、選択したファイルやフォルダーを操作できます。

-  : フォルダーを新規作成します。
-  : インポート対象のアプリ一覧が表示されます。

● 選択モード

操作するファイルやフォルダーをタップして選択します。選択したファイルやフォルダーには  が表示されます。

■ 完了

画面タイトルの右にある文字をタップすると、通常モードに切り替わります。

■ 操作メニュー

画面下部のアイコンをタップして、選択したファイルやフォルダーを操作できます。

-  : エクスポート対象のアプリ一覧が表示されます。
-  : 選択したファイルやフォルダーを削除します。
-  : 選択したファイルやフォルダーを移動します。
このアイコンをタップしたあとで移動したいフォルダーを選択し、[ここに移動] をタップします。
-  : 選択したファイルやフォルダーの名前を変更します。

5 ヘルプ画面

ヘルプメニューが表示されます。



- **ユーザーズ マニュアル**
本マニュアルが表示されます。
- **ライセンス**
WindEDIT Liteで使用しているソフトウェアのライセンスが表示されます。
- **WindEDIT Liteについて**
WindEDIT Liteのバージョン番号が表示されます。
- **✕ (閉じる)**
ヘルプ画面を閉じます。

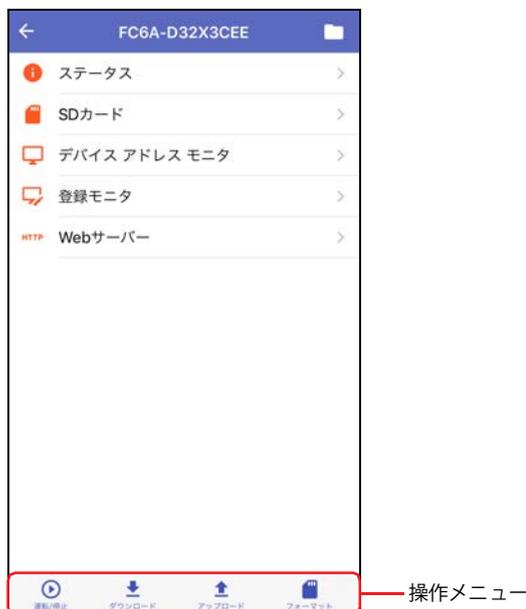
第2章 PLC接続時の使いかた

この章では、PLCを接続してWindEDIT Liteを使用する方法について説明します。

1 メイン画面

1.1 メイン画面

接続先の機器に接続すると、メイン画面が開きます。



■ ステータス

接続先の機器のステータスが表示されます。詳細は、2-3ページ「2 ステータスの表示」を参照してください。

■ SDカード

SDカード画面が表示されます。詳細は、2-4ページ「3 ファイルやフォルダーの表示と操作」を参照してください。

■ デバイス アドレス モニタ

デバイス アドレス モニタ画面が表示されます。詳細は、2-15ページ「8 デバイス アドレス モニタ」を参照してください。

■ 登録モニタ

登録モニタ画面が表示されます。グループごとに登録したデバイス アドレスの値をモニタしたり、変更したりできます。また、デバイス アドレスの値は、トレンド グラフで表示することもできます。

■ Webサーバー

ブラウザ アプリを起動し、WebサーバーにアクセスしてWebページを開きます。

■ 操作メニュー

画面下部のアイコンをタップして、各機能进行操作できます。

-  : PLCの運転状態を停止中から運転中に変更します。または、運転中から停止中に変更します。詳細は、2-9ページ「4 PLCの運転状態を変更する」を参照してください。
-  : WindEDIT Lite内のフォルダーに保存しているZLDプロジェクト ファイル(.zld)を接続先の機器に書き込みます。または、PLCのシステムソフトウェアを書き込みます。詳細は、2-10ページ「5 ダウンロード」を参照してください。
-  : PLC内のプログラムをZLDプロジェクト ファイル(.zld)としてWindEDIT Lite内のフォルダーに保存します。詳細は、2-13ページ「6 アップロード」を参照してください。
-  : PLCに挿入しているSDメモリカードをフォーマットします。詳細は、2-14ページ「7 SDメモリカードのフォーマット」を参照してください。

2 ステータスの表示

メイン画面で [ステータス] をタップすると、接続先の機器のステータスが表示されます。

← ステータス	
機種	FC6A-D32X3CEE
PLCシステムソフト バージョン	1.50
運転状態	運転中 >
スキャンタイム (現在値)	1 ミリ秒
スキャンタイム (最大値)	1 ミリ秒
タイマ/カウンタ設定値変更状態	変更なし >
日付	2019/12/25 15:15:57
書込みプロテクト	未設定
読み出しプロテクト	未設定
エラー状態	エラー >
電池電圧	90 %

機種：	接続先の機器の機種名が表示されます。
PLCシステムソフト バージョン：	接続先の機器のシステム ソフトウェアのバージョン番号が表示されます。
運転状態：	接続先の機器の運転状態が表示されます。タップすると、運転を開始または停止できます。
スキャン タイム (現在値)：	接続先の機器のユーザー プログラムのスキャン タイムの現在値が表示されます。
スキャン タイム (最大値)：	接続先の機器のユーザー プログラムのスキャン タイムの最大値が表示されます。
タイマ/カウンタ設定値変更状態：	接続先の機器のタイマおよびカウンタの設定値の状態が表示されます。タップすると、変更の確認メッセージが表示されます。
	確定： 変更された値をユーザー プログラムのタイマおよびカウンタの設定値に書き込みます。
	クリア： ユーザー プログラムの設定値に戻します。
日付：	接続先の機器の内部時計のデータが表示されます。
書込みプロテクト：	接続先の機器のユーザー プログラムの [プログラム ダウンロード] に設定された内容が表示されます。
読み込みプロテクト：	接続先の機器のユーザー プログラムの [プログラム アップロード] に設定された内容が表示されます。
エラー状態：	タップすると、PLC本体エラー ステータス画面が表示され、接続先の機器に現在発生しているエラーを確認できます。
電池電圧：	接続先の機器のバックアップ電池の残量が表示されます。

3 ファイルやフォルダーの表示と操作

3.1 ファイルやフォルダーを選択する

メイン画面で [SDカード] をタップすると、接続先の機器に挿入したSDメモリ カード内のファイルやフォルダーを一覧表示します。フォルダーの追加や削除、ファイルやフォルダーの名前の変更ができます。



次の機能で読み出しましたは書き込み中のファイルやフォルダーを操作しないでください。

- ・レシピ機能
- ・DLOG命令やTRACE命令のデータ履歴保存機能



● 通常モード

フォルダーをタップすると、フォルダー内の階層（上位、下位）に移動します。

■ ◀ (戻る)

画面タイトルの左にあるアイコンをタップすると、1つ前の画面に戻ります。

■ 選択

画面タイトルの右にある文字をタップすると、選択モードに切り替わります。

■ 操作メニュー

画面下部のアイコンをタップして、選択したファイルやフォルダーを操作できます。

- + : フォルダーを新規作成します。
- ↓ : WindEDIT Lite内のフォルダーに保存しているファイルやフォルダーをPLCに挿入したSDメモリ カードに書き込みます。
- ↑ : 表示されているすべてのファイルやフォルダーをWindEDIT Lite内のフォルダーに保存します。

● 選択モード

操作するファイルやフォルダーをタップして選択します。選択したファイルやフォルダーには  が表示されます。

■ 完了

画面タイトルの右にある文字をタップすると、通常モードに切り替わります。

■ 操作メニュー

画面下部のアイコンをタップして、選択したファイルやフォルダーを操作できます。

-  : 選択したファイルやフォルダーの名前を変更します。
-  : 選択したファイルやフォルダーを削除します。
-  : 選択したファイルやフォルダーをWindEDIT Lite内のフォルダーに保存します。

3.2 ファイルやフォルダーをダウンロードする

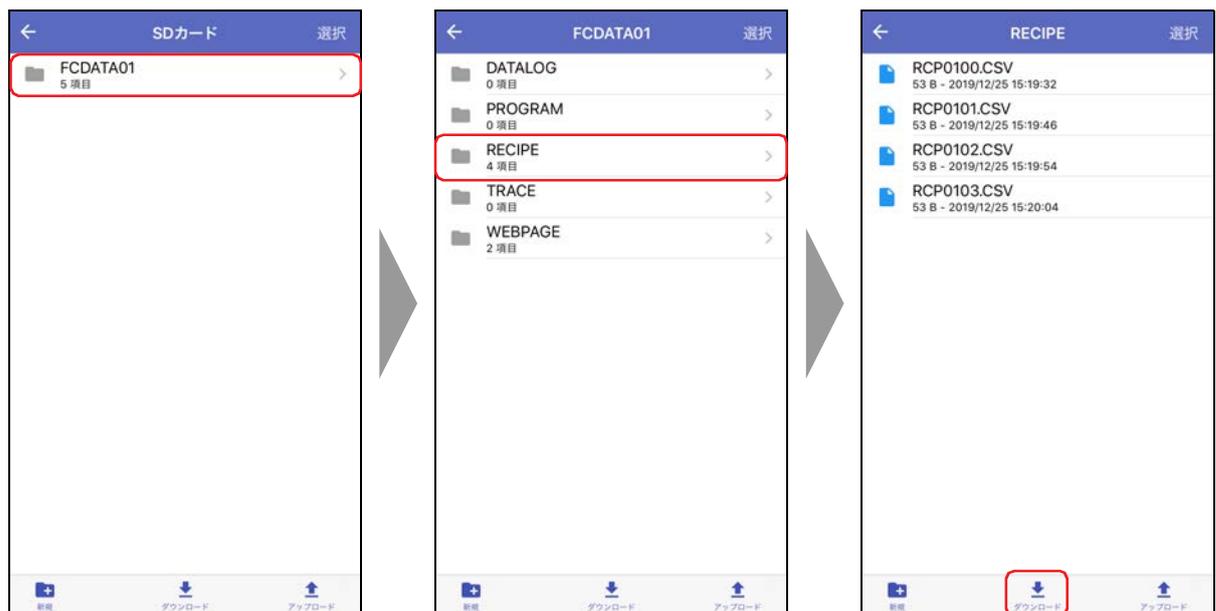
WindEDIT Lite内のフォルダーに保存しているファイルやフォルダーを接続先の機器に挿入したSDメモリカードに書き込みます。



次の機能で読み出したり書き込み中のフォルダーにダウンロードしないでください。

- レシピ機能
- DLOG命令やTRACE命令のデータ履歴保存機能

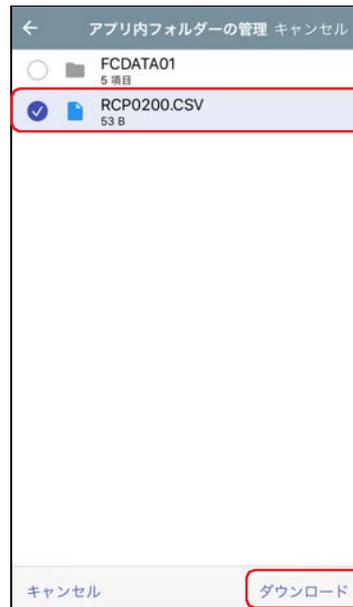
- 1 SDカード画面でダウンロード先のフォルダーを表示し、 をタップします。アプリ内フォルダの管理画面が表示されます。



- 2 ダウンロードするファイルまたはフォルダーを表示し、[選択] をタップします。



- 3 ダウンロードするファイルまたはフォルダーをタップし、[ダウンロード] をタップします。
ダウンロードを開始します。
ダウンロード先に同じ名前のファイルやフォルダーが存在する場合は、上書きの確認メッセージが表示されます。



これでファイルやフォルダーのダウンロードは完了です。

3.3 ファイルやフォルダーをアップロードする

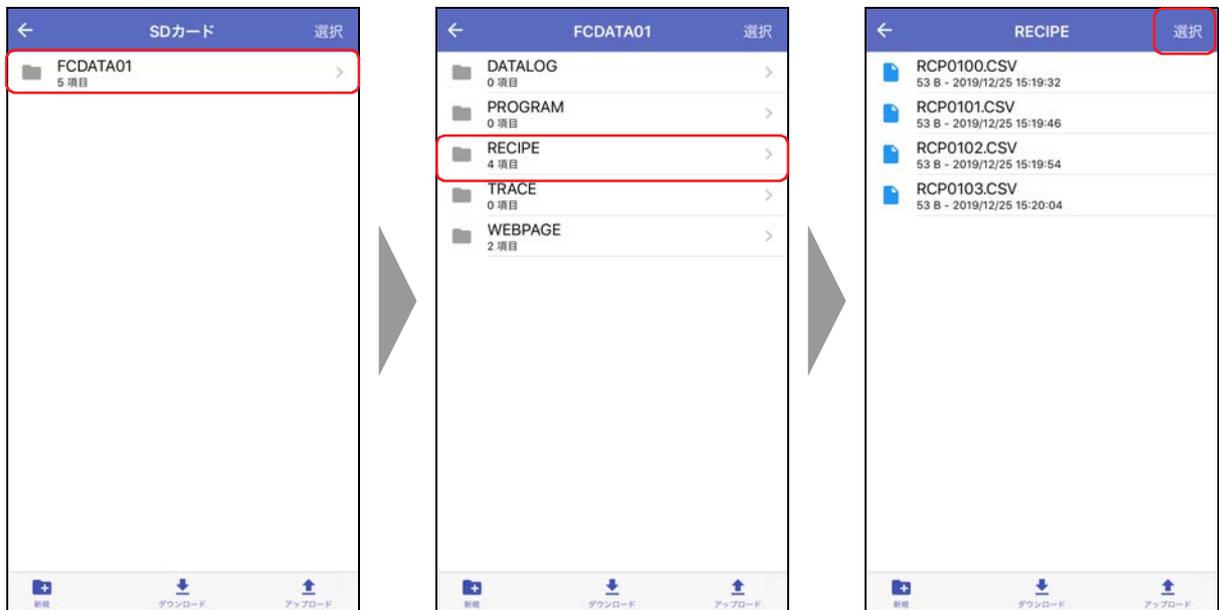
接続先の機器に挿入したSDメモリカードのファイルやフォルダーをWindEDIT Lite内のフォルダーに保存します。



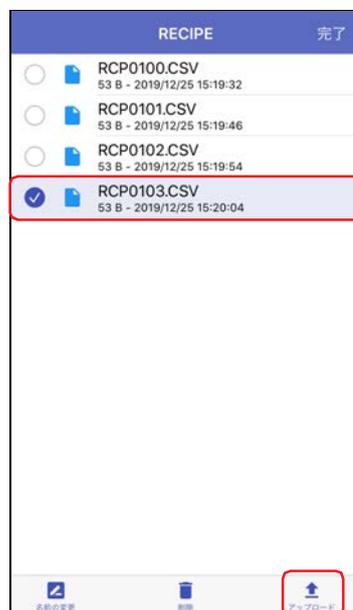
次の機能で読み出しましたまたは書き込み中のファイルやフォルダーをアップロードしないでください。

- レシピ機能
- DLOG命令やTRACE命令のデータ履歴保存機能

- 1 SDカード画面でアップロードするファイルやフォルダーを表示し、[選択] をタップします。



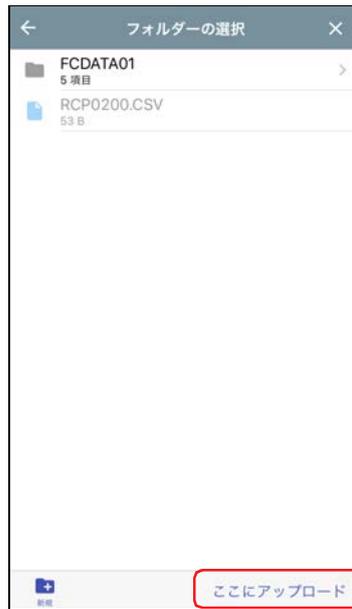
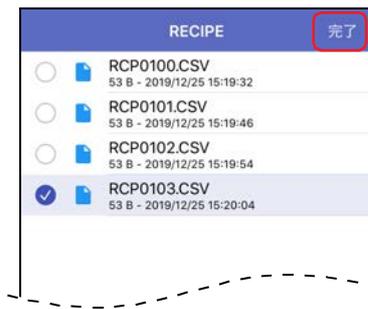
- 2 アップロードするファイルまたはフォルダーをタップし、 をタップします。アプリ内フォルダの管理画面が表示されます。



3 保存先を表示し、[ここにアップロード] をタップします。

アップロードを開始します。

アップロード先に同じ名前のファイルやフォルダーが存在する場合は、上書きの確認メッセージが表示されます。

**4** [完了] をタップします。

これで、ファイルやフォルダーのアップロードは完了です。

4 PLCの運転状態を変更する

4.1 スタート/ストップ操作

WindEDIT Lite の操作によって、PLC の運転状態を「停止中」から「運転中」、または「運転中」から「停止中」に変更します。

- 1 メイン画面の操作メニューで  をタップします。
確認メッセージが表示されます。
- 2 [はい] をタップします。
例) PLCの運転を開始する場合



これでPLCの運転を開始/停止する操作は完了です。

5 ダウンロード

5.1 ZLDプロジェクトファイルをダウンロードする

WindEDIT Lite内のフォルダーに保存しているZLDプロジェクト ファイル(.zld)を接続先の機器にダウンロードします。

- 1 メイン画面の操作メニューで  をタップし、[ZLDプロジェクト] をタップします。



- 2 ZLDプロジェクト ファイル(.zld)をタップします。
ダウンロードを開始します。



接続先の機器のPLCプログラムにパスワードプロテクトが設定されている場合は、パスワード入力画面が表示されます。
パスワードを入力してください。

これでZLDプロジェクトファイル(.zld)のダウンロードは完了です。



- ZLDプロジェクト ファイルをダウンロード中に接続先の機器の電源を切らないでください。
- 次の場合は、接続先の機器の電源を入れ直し、再度ZLDプロジェクト ファイルをダウンロードしてください。
 - ZLDプロジェクト ファイルのダウンロードに失敗して通信できなくなった
 - WindEDIT Liteと接続先の機器が通信中に、ケーブルが切断されたり、電源が供給されなくなったりして、接続先の機器が応答しなくなった

5.2 システムソフトウェアをダウンロードする

PLC のシステムソフトウェアを書き込みます。

- 1 メイン画面の操作メニューで  をタップし、[システムソフトウェア] をタップします。
システムソフトウェアダウンロード画面が表示されます。



- 2 対象モジュールごとに (バージョン) をタップし、システムソフトウェアのバージョンを選択します。
"Not Download"を選択した場合は、システムソフトウェアはダウンロードされません。
例) FC6A-C40X1XE



- 3  (戻る) をタップします。

4  をタップします。

システムソフトウェアのダウンロードを開始します。



5 ダウンロードを完了すると、完了メッセージが表示されます。

[OK] をタップすると、システムソフトウェアダウンロード画面を閉じます。



- システムソフトウェアをダウンロード後、PLCは停止中になります。WindEDIT LiteやWindLDRによる操作、PLCの機能スイッチによる操作、HMIモジュールのLCD操作などでPLCの運転を開始してください。
- システムソフトウェアのダウンロード後もユーザープログラムはそのまま残ります。システムソフトウェアのバージョンを下げた場合、PLCに入っているユーザープログラムを実行できない可能性があります。
- システムソフトウェアのダウンロードが失敗した場合、再度システムソフトウェアをダウンロードしてください。
- Bluetooth通信の場合は、システムソフトウェアのダウンロードは行えません。
- 最新のシステムソフトウェアを取得するために、スマートフォンがインターネットに接続されている必要があります。

6 アップロード

6.1 ZLDプロジェクトファイルをアップロードする

接続先のPLC内のプログラムを読み出して、ZLDプロジェクトファイル(zld)とWindEDIT Lite内のフォルダーに保存します。

- 1 メイン画面の操作メニューで  をタップし、[ZLDプロジェクト] をタップします。



- 2 保存先を表示して、[ここにアップロード] をタップします。
アップロードを開始します。
アップロード先に同じ名前のファイルが存在する場合は、上書きの確認メッセージが表示されます。
・[OK] をタップすると、ファイルのアップロードを開始します。



接続先の機器のPLCプログラムにパスワードプロテクトが設定されている場合は、パスワード入力画面が表示されます。パスワードを入力してください。

これでZLDプロジェクトファイル(zld)のアップロードは完了です。

7 SDメモリカードのフォーマット

接続先の機器に挿入したSDメモリカードをフォーマットします。

- 1 メイン画面の操作メニューで  をタップし、[外部メモリ] をタップします。



確認メッセージが表示されます。

- 2 [フォーマット] をタップします。
フォーマットを実行します。



これでSDメモリカードのフォーマットは完了です。

8 デバイスアドレスモニタ

8.1 デバイスアドレスモニタ画面

メイン画面で [デバイスアドレスモニタ] をタップすると、デバイスアドレスモニタ画面が表示されます。運転中にデバイスアドレスの値をモニタしたり、変更したりできます。

デバイス名	アドレス範囲
I (入力)	>
Q (出力)	>
M (内部リレー (M0000 ~ M7997))	>
M (内部リレー (M10000 ~ M21247))	>
M (特殊内部リレー)	>
R (シフトレジスタ)	>
TC (タイマ現在値)	>
TP (タイマ設定値)	>
CC (カウンタ現在値)	>
CP (カウンタ設定値)	>
D (データレジスタ (D0000 ~ D7999))	>
D (データレジスタ (D10000 ~ D61999))	>
D (非保持データレジスタ (D70000 ~ D2...))	>
D (特殊データレジスタ)	>

● 対応デバイスアドレス

読み出しおよび書き込みできるデバイスアドレスの範囲と最大データ数は、次のとおりです。

内部デバイス名	デバイスアドレス (最大データ数)		
	FC6A-C16	FC6A-C24	FC6A-C40XEJ
入力	I0 ~ I10 (9)	I0 ~ I15 (14)	I0 ~ I27 (24)
	I30 ~ I187 (128)	I30~I307 (224)	
	I190 ~ I507 (256)	I310~I627 (256)	
	630~I633 (4)		I630 ~ I637 (8)
出力	Q0 ~ Q6 (7)	Q0 ~ Q11 (10)	Q0 ~ Q17 (16)
	Q30 ~ Q187 (128)	Q30~Q307 (224)	
	Q190 ~ Q507 (256)	Q310~Q627 (256)	
	Q630~Q633 (4)		Q63 ~ Q637 (8)
内部リレー	M0 ~ M7997 (6400)		
	M10000 ~ M17497 (6000)		
特殊内部リレー	M8000 ~ M8317 (256)		
シフトレジスタ	R0 ~ R255 (256)		
タイマ現在値	TC0 ~ TP1023 (1024)		
タイマ設定値	TP0 ~ TP1023 (1024)		
カウンタ現在値	CC0 ~ CP511 (512)		
カウンタ設定値	CP0 ~ CP511 (512)		
データレジスタ	D0 ~ D7999 (8000)		
	D10000 ~ D55999 (46000)		
特殊データレジスタ	D8000 ~ D8499 (500)		

内部デバイス名	デバイス アドレス (最大データ数)	
	FC6A-D16	
入力	I0 ~ I7 (8)	I0 ~ I17 (16)
	I30 ~ I307 (224)	
	I310 ~ I627 (256)	
	I630 ~ I643 (12)	
	I1000 ~ I10597 (2016)	
出力	Q0 ~ Q7 (8)	Q0 ~ Q17 (16)
	Q30 ~ Q307 (224)	
	Q310 ~ Q627 (256)	
	Q630 ~ Q643 (12)	
	Q1000 ~ Q10597 (2016)	
内部リレー	M0 ~ M7997 (6400)	
	M10000 ~ M21247 (9000)	
特殊内部リレー	M8000 ~ M9997 (1600)	
シフトレジスタ	R0 ~ R255 (256)	
タイマ現在値	TC0 ~ TP1999 (2000)	
タイマ設定値	TP0 ~ TP1999 (2000)	
カウンタ現在値	CC0 ~ CP511 (512)	
カウンタ設定値	CP0 ~ CP511 (512)	
データレジスタ	D0 ~ D7999 (8000)	
	D10000 ~ D61999 (52000)	
非保持データレジスタ	D70000 ~ D269999 (200000)	
特殊データレジスタ	D8000 ~ D8899 (900)	

8.2 デバイスアドレスをモニタする

- 1 デバイスアドレスモニタでモニタするデバイスタイプをタップします。
デバイスアドレス詳細画面が表示されます。



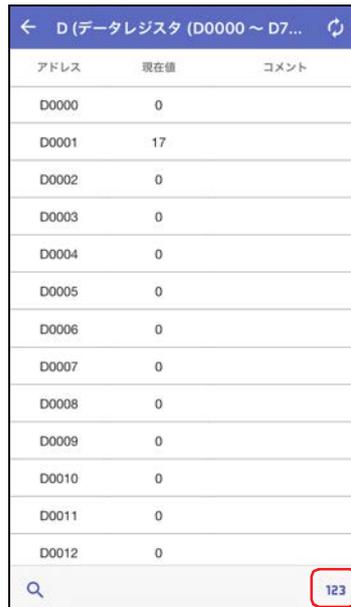
- 2  (先頭デバイスアドレス) をタップします。

アドレス	現在値	コメント
D0000	0	
D0001	17	
D0002	0	
D0003	0	
D0004	0	
D0005	0	
D0006	0	
D0007	0	
D0008	0	
D0009	0	
D0010	0	
D0011	0	
D0012	0	

- 3 表示するデバイスアドレスの先頭デバイスアドレス番号を入力し、[表示] をタップします。



- 4 123 (表示形式) をタップします。



アドレス	現在値	コメント
D0000	0	
D0001	17	
D0002	0	
D0003	0	
D0004	0	
D0005	0	
D0006	0	
D0007	0	
D0008	0	
D0009	0	
D0010	0	
D0011	0	
D0012	0	

123

- 5 デバイス アドレスの現在値の表示形式を切り替え、[完了] をタップします。



アドレス	現在値	コメント
D0100	0	
D0101	0	
D0102	0	
D0103	0	
D0104	0	
D0105	0	
D0106	0	
D0107	0	

完了

10進(W)
16進(W)

6 デバイス アドレスの現在値をタップし、値を変更します。

アドレス	現在値	コメント
D0100	1	
D0101	0	
D0102	0	
D0103	0	
D0104	0	
D0105	0	
D0106	0	
D0107	0	
D0108	0	
D0109	0	
D0110	0	
D0111	0	
D0112	0	

完了

9 登録モニタ

9.1 登録モニタ画面

メイン画面で [登録モニタ] をタップすると、登録モニタ画面が表示されます。グループごとに登録したデバイス アドレスの値をモニタしたり、変更したりできます。また、デバイス アドレスの値は、トレンド グラフで表示することもできます。



接続先の機器から登録モニタやコメントの情報を取得します。

● 対応デバイス アドレス

読み出しおよび書き込みできるデバイス アドレスの範囲と最大データ数は、デバイス アドレス モニタと同様です。詳細は、2-15 ページ「対応デバイス アドレス」を参照してください。

9.2 デバイスアドレスをモニタする

● デバイスアドレス グループを作成する

- 1 登録モニタ画面で **+** (追加) をタップします。
編集モードに切り替わります。



- 2 グループ名を入力し、[作成] をタップします。
最大文字数は半角で44文字です。



デバイスアドレス グループが作成されます。

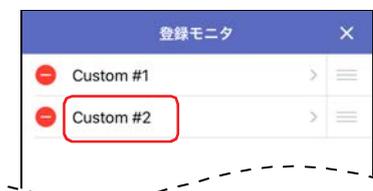


● デバイスアドレス グループ名を変更する

- 1 登録モニタ画面で **✎** (編集) をタップします。
編集モードに切り替わります。



- 2 デバイスアドレス グループ名をタップします。



- 3 グループ名を入力し、[OK] をタップします。
最大文字数は半角で44文字です。



- 4 デバイス アドレス グループ名が変更されたことを確認し、**×** (閉じる) をタップします。登録モニタ画面に戻ります。



変更したデバイス アドレス グループ名が登録モニタ画面に表示されます。



● デバイス アドレス グループを削除する

- 1 登録モニタ画面で **✎** (編集) をタップします。編集モードに切り替わります。



- 2 削除するデバイス アドレス グループの **⊖** (削除) をタップします。



- 3 **[削除]** をタップします。デバイス アドレス グループが登録モニタ画面から削除されます。



- 4 **×** (閉じる) をタップします。登録モニタ画面に戻ります。



● デバイスアドレスを登録してモニタする

モニタするデバイスアドレスを登録し、モニタします。

- 1 登録モニタ画面でモニタするデバイスアドレスを登録するデバイスアドレスグループをタップします。デバイスアドレス登録画面が表示されます。



- 2 「D0000 (初期値)」を変更する場合はデバイスアドレスをタップし、登録するデバイスアドレスを入力します。



- 3 デバイスアドレスを追加する場合は + (追加) をタップし、登録するデバイスアドレスを入力します。



- 4 モニタするすべてのデバイスアドレスを登録します。
- 5 デバイスアドレスの現在値を変更する場合は現在値をタップし、値を入力します。

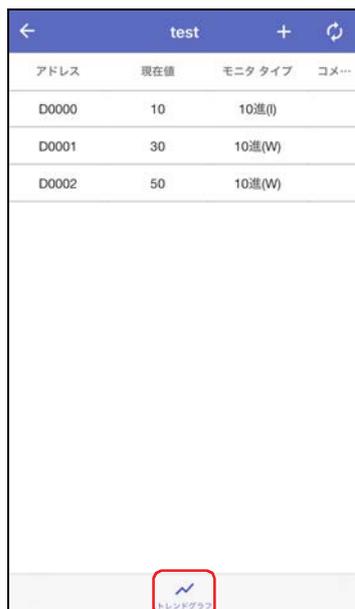


- 6 デバイスアドレスのモニタタイプを変更する場合はモニタタイプをタップし、表示形式を切り替えます。

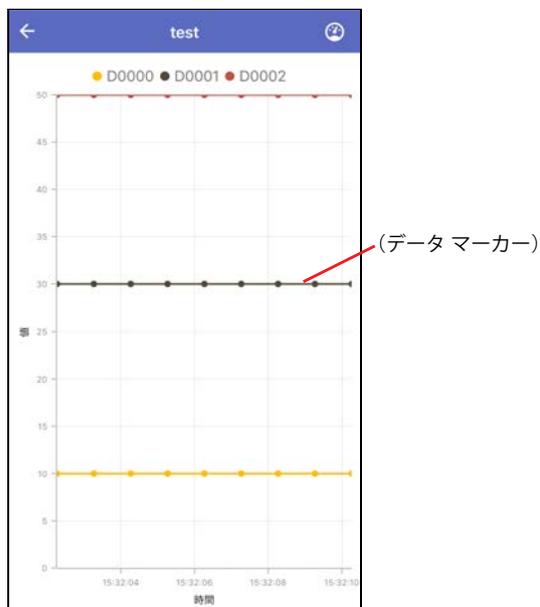


現在値を自動更新する場合は、 (自動更新) をタップします。オンになるとアイコンが赤色になります。

- 7 トレンド グラフを表示する場合は、 をタップします。



トレンド グラフが表示されます。



- 8 トレンド グラフの表示設定を変更する場合は  (トレンド グラフの表示設定) をタップします。トレンド グラフの表示設定画面が表示されます。



■ データ マーカーの表示

データ マーカーの表示/非表示を切り替えます。

■ 最短リード間隔

接続先の機器からデータを取得する間隔 (1~5s) を設定します。

第3章 プログラマブル表示器接続時の使いかた

この章では、プログラマブル表示器を接続してWindEDIT Liteを使用する方法について説明します。

1 メイン画面

1.1 メイン画面

接続先の機器に接続すると、メイン画面が開きます。



■ ステータス

接続先の機器のステータスが表示されます。詳細は、3-3ページ「2 ステータスの表示」を参照してください。

■ USB1※1

USBメモリ画面が表示されます。詳細は、3-5ページ「3 ファイルやフォルダーの表示と操作」を参照してください。

■ USB2※1

USBメモリ画面が表示されます。詳細は、3-5ページ「3 ファイルやフォルダーの表示と操作」を参照してください。

■ SDカード※2

SDカード画面が表示されます。詳細は、3-5ページ「3 ファイルやフォルダーの表示と操作」を参照してください。

■ USBメモリ※3

USBメモリ画面が表示されます。詳細は、3-5ページ「3 ファイルやフォルダーの表示と操作」を参照してください。

■ デバイスアドレス モニタ

デバイスアドレス モニタ画面が表示されます。詳細は、3-24ページ「9 デバイス アドレス モニタ」を参照してください。

■ Webサーバー

ブラウザアプリを起動し、WebサーバーにアクセスしてWebページを開きます。

※1 FT2J形、HG2J形のみ

※2 HG5G/4G/3G/2G-V形、HG4G/3G形、HG2G-5F形のみ

※3 HG5G/4G/3G/2G-V形、HG4G/3G形、HG2G-5F/5T形、HG1G/1P形のみ

■ 操作メニュー

画面下部のアイコンをタップして、各機能进行操作できます。

-  ※1: ラダープログラムのRUN/STOP状態を切り替えます。詳細は、3-10ページ「4 ラダープログラムのRUN/STOP状態を切り替える」を参照してください。
-  : WindEDIT Lite内のフォルダーに保存しているZNVプロジェクトファイル(znv)を接続先の機器に書き込みます。または、接続先の機器のシステムソフトウェアを書き込みます。詳細は、3-11ページ「5 ダウンロード」を参照してください。
-  : プログラマブル表示器内のプログラムをZNVプロジェクトファイル(znv)としてWindEDIT Lite内のフォルダーに保存します。詳細は、3-16ページ「6 アップロード」を参照してください。
-  : 接続先の機器の内蔵メモリに保存されているデータ、または接続先の機器に挿入している外部メモリ^{※2}に保存されているデータを消去します。詳細は、3-20ページ「7 クリア」を参照してください。
-  ※3: 接続先の機器に挿入している外部メモリをフォーマットします。詳細は、3-23ページ「8 外部メモリのフォーマット」を参照してください。

※1 FT2J形のみ

※2 HG5G/4G/3G/2G-V形、HG4G/3G形、HG2G-5F形はSDメモリカード、HG2G-5T形、HG1G/1P形はUSBメモリ

※3 HG5G/4G/3G/2G-V形、HG4G/3G形、HG2G-5F/-5T形、HG1G/1P形のみ

2 ステータスの表示

メイン画面で [ステータス] をタップすると、接続先の機器のステータスが表示されます。

← ステータス	
FT2J-7U22*AF-*	
形番	FT2J-7U22*AF-*
システム ソフトウェア バージョン	3.0.0.12
OS バージョン	1.1.0
ダウンロード サイズ	25296896
プロジェクト名	project01
更新日	
運転状態	運転中 >
スキャンタイム (現在値)	2 ミリ秒
スキャンタイム (最大値)	2 ミリ秒
タイマ/カウンタ設定値変更状態	変更なし >
日付	2001/04/06 03:38:03
エラー状態	>

■ (接続先の機器)

接続先の機器の情報が表示されます。

形番：	接続先の機器の形番が表示されます。
システム ソフトウェア バージョン：	接続先の機器のシステム ソフトウェアのバージョンが表示されます。
OSバージョン※1：	接続先の機器のOSのバージョンが表示されます。
ダウンロード サイズ：	接続先の機器にダウンロードできるプロジェクト データの最大容量 (バイト) が表示されます。
プロジェクト名：	接続先の機器にダウンロードされているプロジェクト データのプロジェクト名が表示されます。
更新日：	接続先の機器にダウンロードされているプロジェクト データをWindO/I-NV4で最後に保存した日時が表示されます。
WindO/I-NV4バージョン：	接続先の機器にダウンロードされているプロジェクト データを作成したWindO/I-NV4のバージョンが表示されます。

※1 FT2J形、HG2J形のみ

■ 外部メモリ情報

接続先の機器に挿入した外部メモリ^{※2}の情報が表示されます。

ステータス： 外部メモリの状態が表示されます。

全容量： 外部メモリの総容量が表示されます。

使用容量： 外部メモリで使用している容量が表示されます。

空き容量： 外部メモリで使用できる空き容量が表示されます。

■ コントロール機能^{※3}

接続先の機器のコントロール機能の情報が表示されます。

運転状態： 接続先の機器のラダー プログラムのRUN/STOP状態が表示されます。タップすると、ラダー プログラムをRUN（実行）またはSTOP（停止）できます。

スキャンタイム（現在値）： 接続先の機器のラダー プログラムのスキャンタイムの現在値が表示されます。

スキャンタイム（最大値）： 接続先の機器のラダー プログラムのスキャンタイムの最大値が表示されます。

タイマ/カウンタ設定値変更状態： 接続先の機器のタイマおよびカウンタの設定値の状態が表示されます。タップすると、変更の確認メッセージが表示されます。

確定： 変更された値をラダー プログラムのタイマおよびカウンタの設定値に書き込みます。

クリア： ラダー プログラムの設定値に戻します。

日付： 接続先の機器の内部時計のデータが表示されます。

エラー状態： タップすると、コントロール機能エラー ステータス画面が表示され、接続先の機器に現在発生しているエラーを確認できます。

■ システム フォント情報^{※4}

各拡張フォントおよび漢字辞書データの右側にインストール状況が表示されます。

※2 FT2J形、HG2J形はUSB1に挿入したUSBメモリ、HG5G/4G/3G/2G-V形、HG4G/3G形、HG2G-5F形はSDメモリ カード、HG2G-5T形、HG1G/1P形はUSBメモリ

※3 FT2J形のみ

※4 HG5G/4G/3G/2G-V形、HG4G/3G形、HG2G-5F/-5T形、HG1G/1P形のみ

3 ファイルやフォルダーの表示と操作

3.1 ファイルやフォルダーを選択する

メイン画面で [USB1]、[USB2]、[SDカード] または [USBメモリ] をタップすると、接続先の機器に挿入した外部メモリ^{※1}内のファイルやフォルダーを一覧表示します。

フォルダーの追加や削除、ファイルやフォルダーの名前の変更ができます。



次の機能で読み出しましたまたは書き込み中のファイルやフォルダーを操作しないでください。

- レシピ機能
- アラーム履歴機能
- データ履歴機能
- 操作履歴機能
- サウンド機能
- マルチメディア機能

例) SDメモリカード



● 通常モード

フォルダーをタップすると、フォルダー内の階層（上位、下位）に移動します。

■ (戻る)

画面タイトルの左にあるアイコンをタップすると、1つ前の画面に戻ります。

■ 選択

画面タイトルの右にある文字をタップすると、選択モードに切り替わります。

■ 操作メニュー

画面下部のアイコンをタップして、選択したファイルやフォルダーを操作できます。

-  : フォルダーを新規作成します。
-  : WindEDIT Lite内のフォルダーに保存しているファイルやフォルダーを接続先の機器に挿入した外部メモリ^{※2}に書き込みます。
-  : 表示されているすべてのファイルやフォルダーをWindEDIT Lite内のフォルダーに保存します。

※1 HG2G-5T形、HG1G/1P形はUSBメモリのみ

※2 FT2J形、HG2J形、HG2G-5T形、HG1G/1P形はUSBメモリのみ

● 選択モード

操作するファイルやフォルダーをタップして選択します。選択したファイルやフォルダーには  が表示されます。

■ 完了

画面タイトルの右にある文字をタップすると、通常モードに切り替わります。

■ 操作メニュー

画面下部のアイコンをタップして、選択したファイルやフォルダーを操作できます。

-  : 選択したファイルやフォルダーの名前を変更します。
-  : 選択したファイルやフォルダーを削除します。
-  : 選択したファイルやフォルダーをWindEDIT Lite内のフォルダーに保存します。

3.2 ファイルやフォルダーをダウンロードする

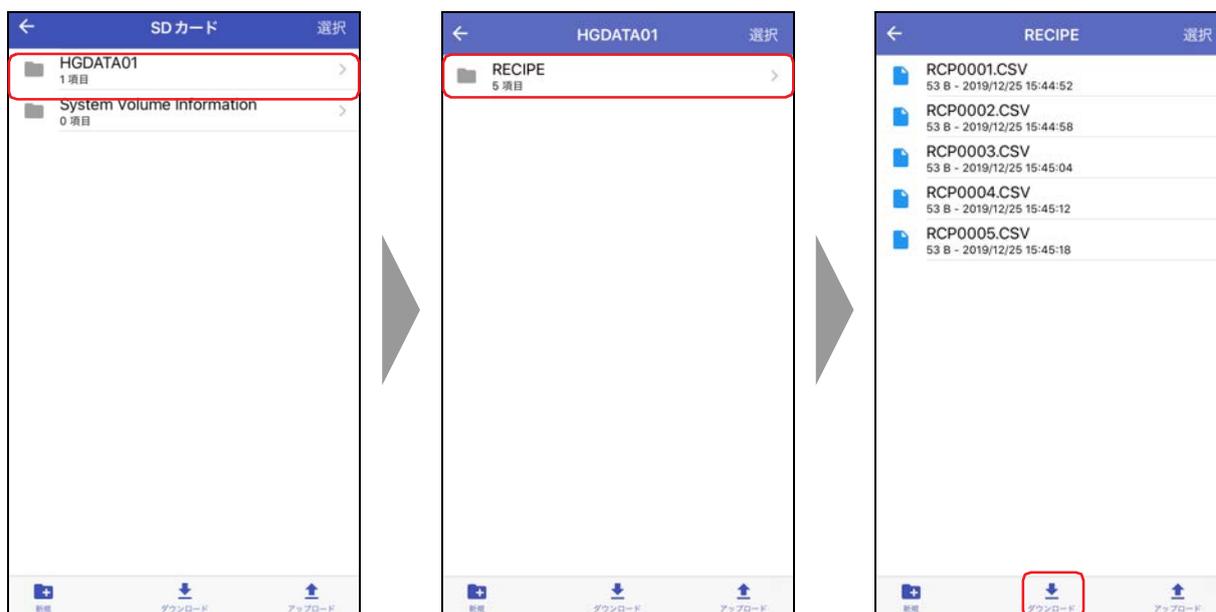
WindEDIT Lite内のフォルダーに保存しているファイルやフォルダーを接続先の機器に挿入した外部メモリ^{※1}に書き込みます。



次の機能で読み出したりは書き込み中のフォルダーにダウンロードしないでください。

- ・レシピ機能
- ・アラーム履歴機能
- ・データ履歴機能
- ・操作履歴機能
- ・サウンド機能
- ・マルチメディア機能

- 1 SDカード画面またはUSBメモリ画面でダウンロード先のフォルダーを表示し、 をタップします。アプリ内フォルダの管理画面が表示されます。

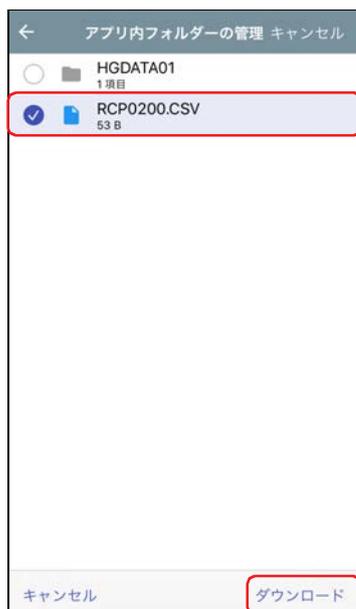


※1 FT2J形、HG2J形、HG2G-5T形、HG1G/1P形はUSBメモリのみ

- 2 ダウンロードするファイルまたはフォルダーを表示し、[選択] をタップします。



- 3 ダウンロードするファイルまたはフォルダーをタップし、[ダウンロード] をタップします。
ダウンロードを開始します。
ダウンロード先に同じ名前のファイルやフォルダーが存在する場合は、上書きの確認メッセージが表示されます。



• 接続先の機器のプロジェクトがパスワード保護されている場合は、[ユーザー名とパスワードの確認] ダイアログが表示されます。ユーザー名とパスワードを入力してください。

• ファイル名が半角英数字および記号のみのファイルに対応しています。ただし、次の文字を含む名前のファイルは、外部メモリにダウンロードできません。

FT2J形、HG2J形： "#\$&'()* /:;<>?\`|~
連続した2個のピリオド

HG5G/4G/3G/2G-V形、HG4G/3G形、HG2G-5F/-5T形、HG1G/1P形： "* /: < > ? \ |

これでファイルやフォルダーのダウンロードは完了です。

3.3 ファイルやフォルダーをアップロードする

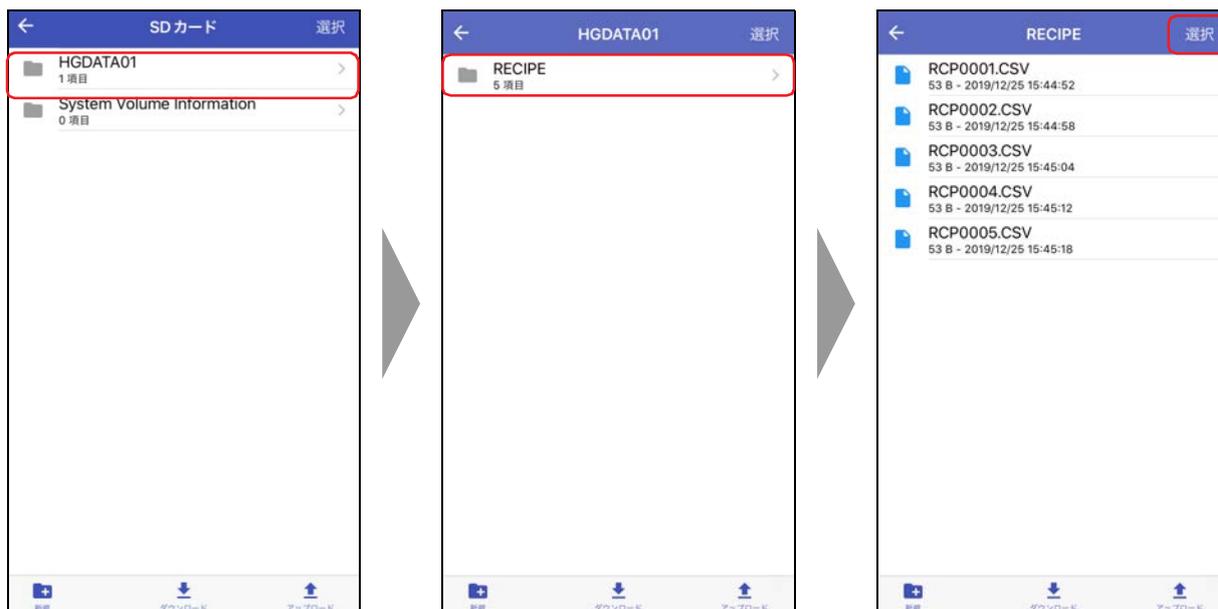
接続先の機器に挿入した外部メモリ^{※1}のファイルやフォルダーをWindEDIT Lite内のフォルダーに保存します。



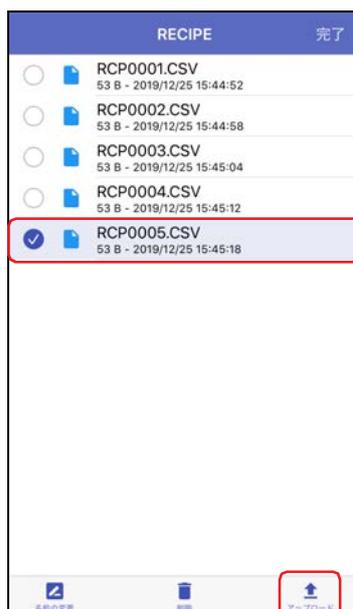
次の機能で読み出しましたまたは書き込み中のファイルやフォルダーをアップロードしないでください。

- ・レシピ機能
- ・アラーム履歴機能
- ・データ履歴機能
- ・操作履歴機能
- ・サウンド機能
- ・マルチメディア機能

- 1 SDカード画面でアップロードするファイルやフォルダーを表示し、[選択] をタップします。



- 2 アップロードするファイルまたはフォルダーをタップし、 をタップします。アプリ内フォルダの管理画面が表示されます。



※1 HG2G-5T形、HG1G/1P形はUSBメモリのみ

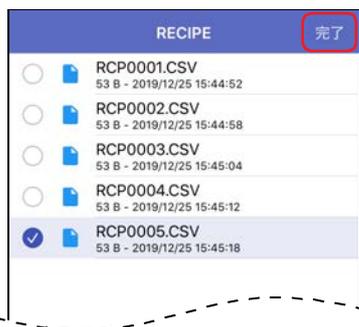
3 保存先を表示し、[ここにアップロード] をタップします。

アップロードを開始します。

アップロード先に同じ名前のファイルやフォルダーが存在する場合は、上書きの確認メッセージが表示されます。



接続先の機器のプロジェクトがパスワード保護されている場合は、[ユーザー名とパスワードの確認] ダイアログが表示されます。ユーザー名とパスワードを入力してください。

4 [完了] をタップします。

これで、ファイルやフォルダーのアップロードは完了です。

3

4 ラダープログラムのRUN/STOP状態を切り替える

4.1 RUN/STOP操作

WindEDIT Lite の操作によって、ラダープログラムを RUN または STOP します。※1

- 1 メイン画面の操作メニューで  をタップします。
確認メッセージが表示されます。
- 2 [はい] をタップします。
例) ラダープログラムをRUNする場合



これでラダープログラムをRUN/STOPする操作は完了です。

※1 FT2J形のみ

5 ダウンロード

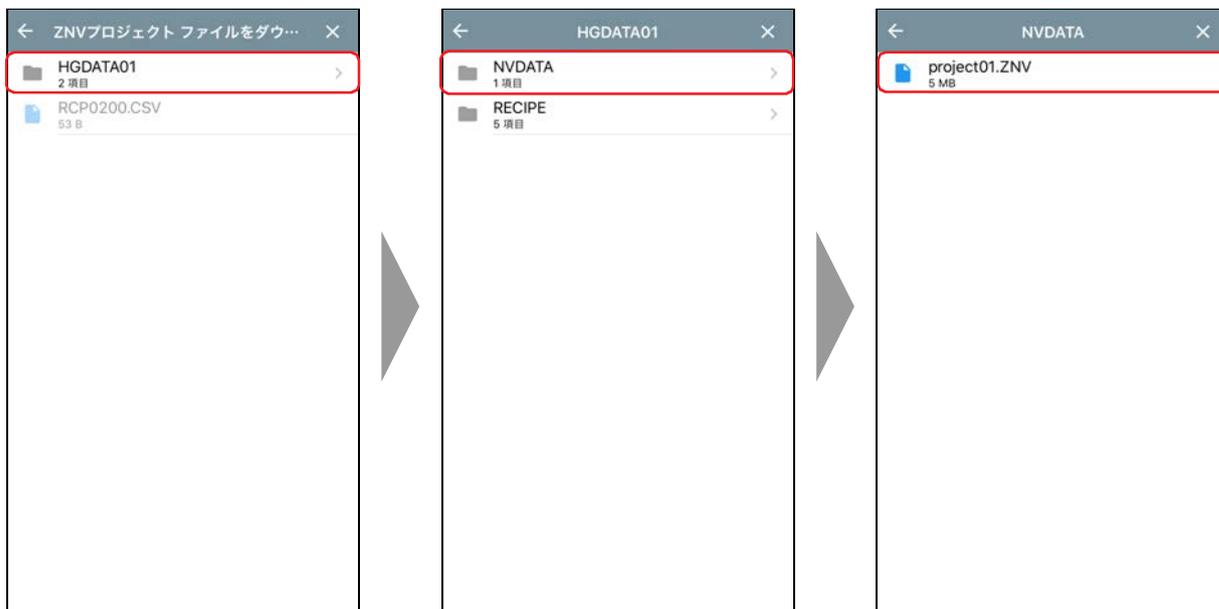
5.1 ZNVプロジェクトファイルを接続先の機器へダウンロードする

WindEDIT Lite内のフォルダーに保存しているZNVプロジェクトファイル(.znv)を接続先の機器にダウンロードします。

- 1 メイン画面の操作メニューで  をタップし、[ZNVプロジェクト] をタップします。



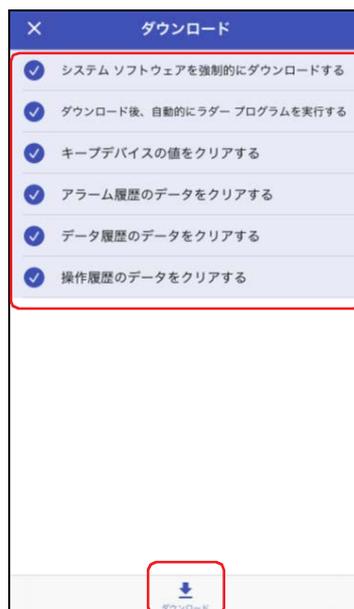
- 2 ZNVプロジェクトファイル(.znv)をタップします。
ダウンロード時のオプションが表示されます。



3

プログラマブル表示器接続時の使いかた

- 3 ダウンロード時のオプションを選択し、 をタップします。
ダウンロードを開始します。



■ システムソフトウェアを強制的にダウンロードする

ZNVプロジェクトファイルのダウンロード時に、ZNVプロジェクトファイルに含まれるシステムソフトウェアを強制的にダウンロードする場合は、この項目をオンにします。

■ ダウンロード後、自動的にラダープログラムを実行する^{※1}

ZNVプロジェクトファイルのダウンロード後に、自動的にラダープログラムを実行する場合は、この項目をオンにします。ZNVプロジェクトファイルのダウンロードが完了すると、特殊内部リレー M8000 の値が1 になります。

■ フォントおよび漢字辞書データをダウンロードする^{※2}

ZNVプロジェクトファイルのダウンロード時に、ZNVプロジェクトファイルに含まれるフォントおよび辞書データをMICRO/IIにダウンロードする場合は、このチェックボックスをオンにします。

■ キープデバイスの値をクリアする

ZNVプロジェクトファイルをダウンロードしたあとに、キープデバイスの値をクリアする場合は、このチェックボックスをオンにします。

■ アラーム履歴のデータをクリアする

ZNVプロジェクトファイルをダウンロードしたあとに、アラーム履歴のデータをクリアする場合は、このチェックボックスをオンにします。

■ データ履歴のデータをクリアする

ZNVプロジェクトファイルをダウンロードしたあとに、データ履歴のデータをクリアする場合は、このチェックボックスをオンにします。

■ 操作履歴のデータをクリアする

ZNVプロジェクトファイルをダウンロードしたあとに、操作履歴のデータをクリアする場合は、このチェックボックスをオンにします。



- ・[システムソフトウェアを強制的にダウンロードする] チェックボックスがオンの場合、[キープデバイスの値をクリアする]、[アラーム履歴のデータをクリアする]、[データ履歴のデータをクリアする]、[操作履歴のデータをクリアする] チェックボックスもオンになります。また、データ保持領域の設定を変更したZNVプロジェクトファイルをダウンロードすると、キープデバイスの値および履歴データをすべてクリアします。
- ・接続先の機器のプロジェクトがパスワード保護されている場合は、[ユーザー名とパスワードの確認] ダイアログが表示されます。ユーザー名とパスワードを入力してください。

これでZNVプロジェクトファイル(znv)のダウンロードは完了です。

※1 FT2J形のみ

※2 HG5G/4G/3G/2G-V形、HG4G/3G形、HG2G-5F/-5T形、HG1G/1P形のみ



- ・ZNVプロジェクト ファイルをダウンロード中に接続先の機器の電源を切らないでください。
- ・次の場合は、接続先の機器の電源を入れ直し、再度ZNVプロジェクト ファイルをダウンロードしてください。
 - ZNVプロジェクト ファイルのダウンロードに失敗して通信できなくなった
 - WindEDIT Liteと接続先の機器が通信中に、ケーブルが切断されたり、電源が供給されなくなったりして、接続先の機器が応答しなくなった

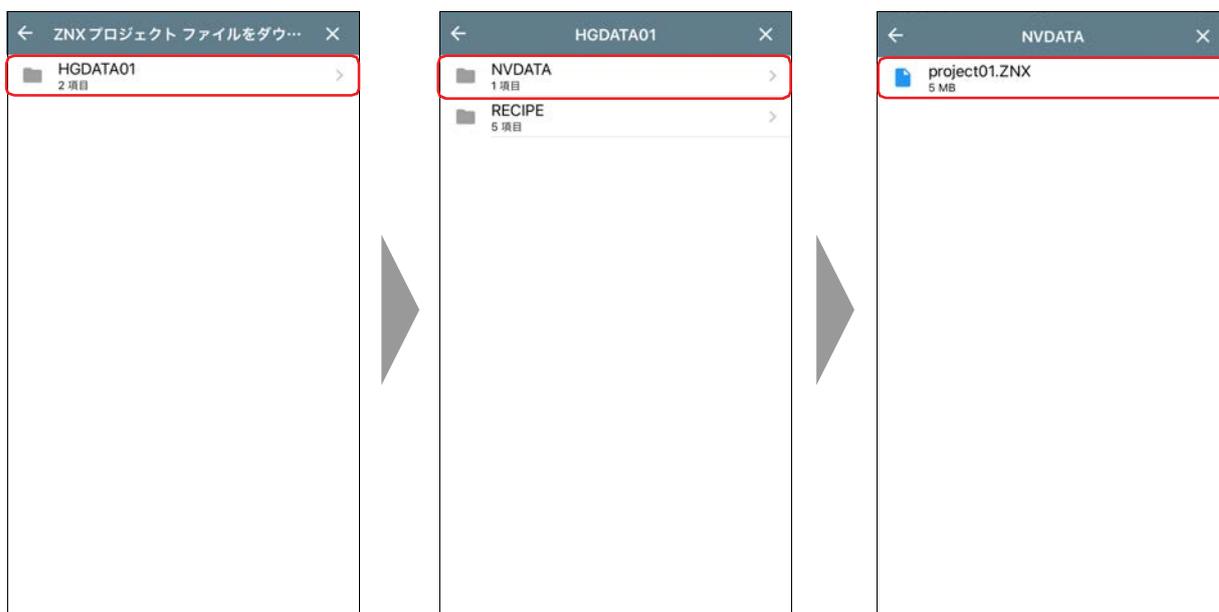
5.2 ZNXプロジェクト ファイルを接続先の機器へダウンロードする

WindEDIT Lite内のフォルダーに保存しているZNXプロジェクト ファイル(.znx)を接続先の機器にダウンロードします。

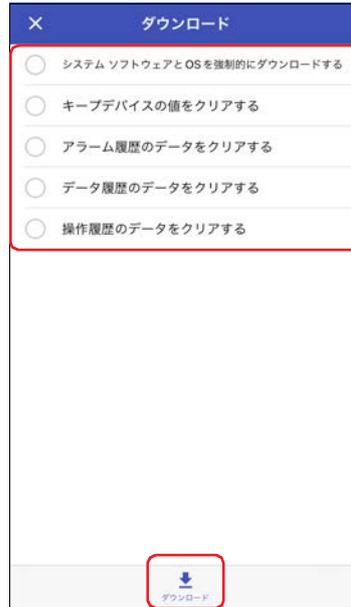
- 1 メイン画面の操作メニューで  をタップし、[ZNXプロジェクト] をタップします。



- 2 ZNXプロジェクト ファイル(.znx)をタップします。
ダウンロード時のオプションが表示されます。



- 3 ダウンロード時のオプションを選択し、 をタップします。
ダウンロードを開始します。



■ **システムソフトウェアとOSを強制的にダウンロードする**

ZNXプロジェクトファイルのダウンロード時に、システムソフトウェアとOSを強制的にダウンロードする場合は、この項目をオンにします。

■ **キーボードデバイスの値をクリアする**

ZNXプロジェクトファイルをダウンロードしたあとに、キーボードデバイスの値をクリアする場合は、このチェックボックスをオンにします。

■ **アラーム履歴のデータをクリアする**

ZNXプロジェクトファイルをダウンロードしたあとに、アラーム履歴のデータをクリアする場合は、このチェックボックスをオンにします。

■ **データ履歴のデータをクリアする**

ZNXプロジェクトファイルをダウンロードしたあとに、データ履歴のデータをクリアする場合は、このチェックボックスをオンにします。

■ **操作履歴のデータをクリアする**

ZNXプロジェクトファイルをダウンロードしたあとに、操作履歴のデータをクリアする場合は、このチェックボックスをオンにします。



- ・[システムソフトウェアとOSを強制的にダウンロードする] チェックボックスがオンの場合、[キーボードデバイスの値をクリアする]、[アラーム履歴のデータをクリアする]、[データ履歴のデータをクリアする]、[操作履歴のデータをクリアする] チェックボックスもオンになります。また、データ保持領域の設定を変更したZNXプロジェクトファイルをダウンロードすると、キーボードデバイスの値および履歴データをすべてクリアします。
- ・接続先の機器のプロジェクトがパスワード保護されている場合は、[ユーザー名とパスワードの確認] ダイアログが表示されます。ユーザー名とパスワードを入力してください。

これでZNXプロジェクトファイル(.znx)のダウンロードは完了です。

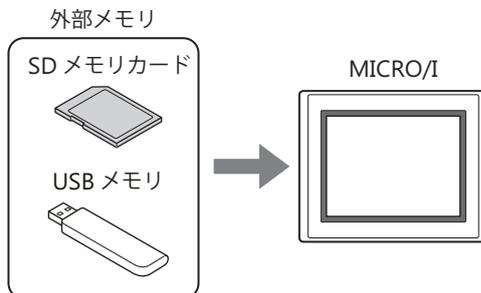


- ・ZNXプロジェクトファイルをダウンロード中に接続先の機器の電源を切らないでください。
- ・次の場合は、接続先の機器の電源を入れ直し、再度ZNXプロジェクトファイルをダウンロードしてください。
 - ZNXプロジェクトファイルのダウンロードに失敗して通信できなくなった
 - WindEDIT Liteと接続先の機器が通信中に、ケーブルが切断されたり、電源が供給されなくなったりして、接続先の機器が応答しなくなった

5.3 ファイルを接続先の機器に挿入した外部メモリへダウンロードする

接続先の機器に挿入している外部メモリ※1に、指定したファイルをダウンロードします。ダウンロード先は、運転中のプロジェクトで指定されている外部メモリ フォルダーになります。

- 1 外部メモリを接続先の機器に挿入します。



- 2 メイン画面の操作メニューで  をタップし、外部メモリへのファイルのダウンロード方法を選択します。



- **ファイルを外部メモリへ**

接続先の機器の運転を停止し、接続先の機器に挿入している外部メモリにファイルをダウンロードします。ファイルのダウンロードが完了すると、運転を再開します。

- **運転中にファイルを外部メモリへ**

接続先の機器を停止せずに運転をしたまま、接続先の機器に挿入している外部メモリにファイルをダウンロードします。

- 3 ダウンロードするファイルをタップします。

ダウンロードを開始します。



• 接続先の機器のプロジェクトがパスワード保護されている場合は、[ユーザー名とパスワードの確認] ダイアログが表示されます。ユーザー名とパスワードを入力してください。

• ファイル名が半角英数字および記号のみのファイルに対応しています。ただし、次の文字を含む名前のファイルは、外部メモリにダウンロードできません。

FT2J形、HG2J形： "# \$ & ' () * / : ; < > ? \ ` | ~
連続した2個のピリオド

HG5G/4G/3G/2G-V形、HG4G/3G形、HG2G-5F/-5T形、HG1G/1P形： " * / : < > ? \ |

これでファイルのダウンロードは完了です。

※1 FT2J形、HG2J形はUSB1に挿入したUSBメモリ、HG5G/4G/3G/2G-V形、HG4G/3G形、HG2G-5F形はSDメモリ カード、HG2G-5T形、HG1G/1P形はUSBメモリ

6 アップロード

6.1 ZNVプロジェクトファイルを接続先の機器からアップロードする

接続先の機器で運転に使用しているプロジェクトを読み出して、ZNVプロジェクトファイル(.zmv)としてWindEDIT Lite内のフォルダーに保存します。

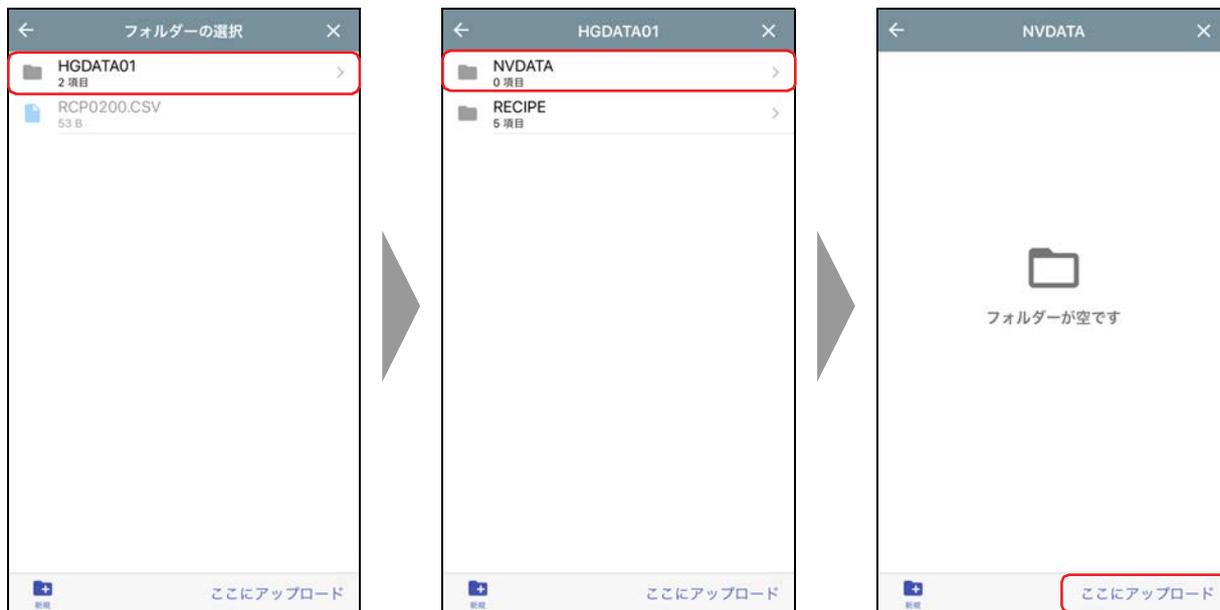
- 1 メイン画面の操作メニューで  をタップし、[ZNVプロジェクト] をタップします。



- 2 保存先を表示して、[ここにアップロード] をタップします。

アップロードを開始します。

アップロード先に同じ名前のファイルが存在する場合は、上書きの確認メッセージが表示されます。



接続先の機器のプロジェクトがパスワード保護されている場合は、[ユーザー名とパスワードの確認] ダイアログが表示されます。ユーザー名とパスワードを入力してください。

これでZNVプロジェクトファイル(.zmv)のアップロードは完了です。

6.2 履歴データをアップロードする

接続先の機器の内蔵メモリに保存された履歴データを読み出して、CSV形式のファイルとしてWindEDIT Lite内のフォルダーに保存します。

- 1 メイン画面の操作メニューで  をタップし、アップロードする履歴データをタップします。



- **すべての履歴データ**
アラーム履歴のデータ、データ履歴のデータ、操作履歴のデータをアップロードします。
- **アラーム履歴のデータ**
アラーム履歴機能で収集したデータをアップロードします。
- **データ履歴のデータ**
データ履歴機能で収集したデータをアップロードします。
- **操作履歴のデータ**
操作履歴機能で収集したデータをアップロードします。

- 2 保存先を表示して、[ここにアップロード] をタップします。
アップロードを開始します。
アップロード先に同じ名前のファイルが存在する場合は、上書きの確認メッセージが表示されます。



接続先の機器のプロジェクトがパスワード保護されている場合は、[ユーザー名とパスワードの確認] ダイアログが表示されます。ユーザー名とパスワードを入力してください。

これでデータのアップロードは完了です。

6.3 接続先の機器に挿入した外部メモリのファイルをアップロードする

接続先の機器に挿入している外部メモリ^{※1}から指定したファイルを読み出してWindEDIT Lite内のフォルダーに保存します。アップロード元は、運転中のプロジェクトで指定されている外部メモリ フォルダになります。

- 1 メイン画面の操作メニューで  をタップし、[外部メモリのファイル] をタップします。



- 2 アップロードするファイルをタップし、 をタップします。



アップロードできるファイルは、次のとおりです。

- スクリーンショット
- アラーム履歴のファイル
- データ履歴のファイル
- 操作履歴のファイル
- レシピファイル
- ピクチャファイル
- サウンドファイル^{※2}
- 動画ファイルリスト^{※3}
- 動画ファイル^{※3}
- ZLDプロジェクトファイル

※1 HG5G/4G/3G/2G-V形、HG4G/3G形、HG2G-5F形はSDメモリ カード、HG2G-5T形、HG1G/1P形はUSBメモリ

※2 HG5G/4G/3G-V形、HG4G/3G形のみ

※3 ビデオインターフェイス搭載機種のみ

- 3 保存先を表示して、[ここにアップロード] をタップします。
アップロードを開始します。
アップロード先に同じ名前のファイルが存在する場合は、上書きの確認メッセージが表示されます。



接続先の機器のプロジェクトがパスワード保護されている場合は、[ユーザー名とパスワードの確認] ダイアログが表示されます。ユーザー名とパスワードを入力してください。

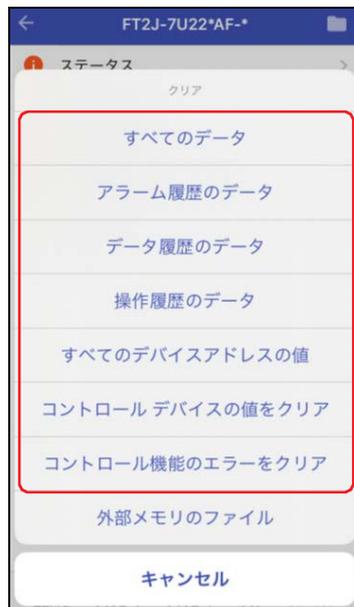
これでファイルのアップロードは完了です。

7 クリア

7.1 接続先の機器のデータをクリアする

接続先の機器の内蔵メモリに保存されているデータを消去します。

- 1 メイン画面の操作メニューで  をタップし、消去するデータをタップします。確認メッセージが表示されます。



- **すべてのデータ**
プロジェクト データおよびアラーム履歴のデータ、データ履歴のデータ、操作履歴のデータを消去します。また、すべてのデバイスアドレスの値をクリアします。
- **アラーム履歴のデータ**
アラーム履歴機能で収集したデータを消去します。
- **データ履歴のデータ**
データ履歴機能で収集したデータを消去します。
- **操作履歴のデータ**
操作履歴機能で収集したデータを消去します。
- **すべてのデバイスアドレスの値**
すべてのデバイス アドレスの値をクリアします。
- **コントロール デバイスの値をクリア**※1
接続先の機器の内蔵メモリに保存されているコントロール デバイスの値をクリアします。
- **コントロール機能のエラーをクリア**※1
接続先の機器の内蔵メモリに保存されているコントロール機能のエラーの情報をクリアします。



接続先の機器のプロジェクトがパスワード保護されている場合は、[ユーザー名とパスワードの確認] ダイアログが表示されます。ユーザー名とパスワードを入力してください。

※1 FT2J形のみ

- 2 [クリア] をタップします。
データの消去を開始します。



これでデータのクリアは完了です。

3**プログラマブル表示器接続時の使いかた**

7.2 接続先の機器に挿入した外部メモリのデータを消去する

接続先の機器の運転を停止したあと、接続先の機器に挿入した外部メモリ^{※1}の外部メモリ フォルダに保存されているデータを消去します。

- 1 メイン画面の操作メニューで  をタップし、[外部メモリのファイル] をタップします。



- 2 外部メモリ フォルダから消去するデータをタップし、 をタップします。
“スクリーンショット”、“アラーム履歴ファイル”、“データ履歴ファイル”、“操作履歴ファイル”、“レシピファイル”
確認メッセージが表示されます。



- 3 [クリア] をタップします。
外部メモリのファイルの消去を開始します。



接続先の機器のプロジェクトがパスワード保護されている場合は、[ユーザー名とパスワードの確認] ダイアログが表示されます。ユーザー名とパスワードを入力してください。

これで外部メモリのファイルのクリアは完了です。

※1 HG5G/4G/3G/2G-V形、HG4G/3G形、HG2G-5F形はSDメモリ カード、HG2G-5T形、HG1G/1P形はUSBメモリ

8 外部メモリのフォーマット

接続先の機器の運転を停止して、接続先の機器に挿入した外部メモリ^{※1}をフォーマットします。



外部メモリのフォーマット機能は、HG5G/4G/3G/2G-V形、HG4G/3G形、HG2G-5F/-5T形、HG1G/1P形のみ対応しています。

- 1 メイン画面の操作メニューで  をタップし、[外部メモリ] をタップします。

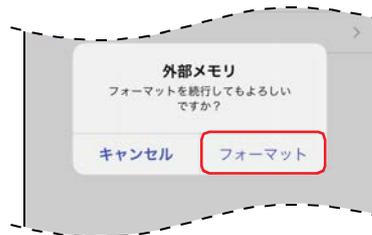


接続先の機器のプロジェクトがパスワード保護されている場合は、[ユーザー名とパスワードの確認] ダイアログが表示されます。ユーザー名とパスワードを入力してください。



確認メッセージが表示されます。

- 2 [フォーマット] をタップします。
フォーマットを実行します。



これで外部メモリのフォーマットは完了です。

※1 HG5G/4G/3G/2G-V形、HG4G/3G形、HG2G-5F形はSDメモリカード、HG2G-5T形、HG1G/1P形はUSBメモリ

9 デバイスアドレス モニタ

9.1 デバイスアドレス モニタ画面

メイン画面で [デバイスアドレス モニタ] をタップすると、デバイスアドレス モニタ画面が表示されます。運転中にデバイスアドレスの値をモニタしたり、変更したりできます。

← デバイスアドレス モニタ	
LM (HMI内部リレー)	>
LSM (HMI特殊内部リレー)	>
LK (HMIキーリレー)	>
LTC (HMIタイマ(接点))	>
LBM (HMIリボラリレー)	>
LDR (HMIディレクタ)	>
~~~~~	
R (シフトレジスタ (ビット))	>
TC (タイマ現在値)	>
TP (タイマ設定値)	>
CC (カウンタ現在値)	>
CP (カウンタ設定値)	>
D (データレジスタ)	>
D (特殊データレジスタ)	>

## ● 対応デバイス アドレス

読み出しおよび書き込みできるデバイス アドレスの範囲は、次のとおりです。

### ■ ビットデバイス

#### HMIデバイス

内部デバイス名	記号	R/W	アドレス範囲	表現進数
HMI内部リレー	LM	R/W	0~4095 ^{※1} 0~2047 ^{※2}	10
HMIキーブリレー	LK	R/W	可変	10
HMIタイマ (接点)	LTC	R	0~31	10
デジタル入力 (ビット) ^{※3}	LEX	R	0~77	8
デジタル出力 (ビット) ^{※3}	LEY	R/W	0~77	8
HMI拡張入力 (ビット) ^{※4}	LI	R	0~D	16
HMI拡張出力 (ビット) ^{※4}	LQ	R/W	0~1	16
HMIテンポラリリレー	LBM	R/W	0~255 ^{※1} 0~127 ^{※2}	10
HMI特殊内部リレー	LSM	R/W	0~95	10

#### コントロール デバイス

内部デバイス名	記号	R/W	アドレス範囲	表現進数
増設入力 ^{※5}	#I	R	30~107	10 ^{※6}
増設出力 ^{※5}	#Q	R/W	30~127	10 ^{※6}
内部リレー ^{※5}	#M	R/W	0~797	10 ^{※6}
入力 (ビット) ^{※7}	I	R	0~15 20~27	10 ^{※6}
出力 (ビット) ^{※7}	Q	R/W	0~7 10~17	10 ^{※6}
内部リレー (ビット) ^{※7}	M	R/W	0~7997	10 ^{※6}
特殊内部リレー (ビット) ^{※7}	M	R/W	8000~8177	10 ^{※6}
シフトレジスタ (ビット) ^{※7}	R	R/W	0~127	10



R/Wは、Read (リード) /Write (ライト) の略で、R/Wは読み出しおよび書き込みができます。Rは読み出し専用です。

- ※1 FT2J形、HG2J形のみ
- ※2 HG5G/4G/3G/2G-V形、HG4G/3G形、HG2G-5F/-5T形、HG1G/1P形のみ
- ※3 HG4G/3G形、HG2G-5F形のみ
- ※4 HG1P形のみ
- ※5 HG5G/4G/3G/2G-V形のみ
- ※6 アドレス番号の下1桁は、0~7の8進数です。
- ※7 FT2J形のみ

## ■ ワードデバイス

### HMIデバイス

内部デバイス名	記号	R/W	アドレス範囲	表現進数
HMIデータレジスタ	LDR	R/W	0~16383 ^{※1} 0~8191 ^{※2}	10
HMIキープレジスタ	LKR	R/W	可変	10
HMIタイマ (現在値)	LTD	R	0~31	10
デジタル入力 (ワード) ^{※3}	WLEX	R	0、20、40、60	10
デジタル出力 (ワード) ^{※3}	WLEY	R/W	0、20、40、60	10
HMIテンポラリレジスタ	LBR	R/W	0~255 ^{※1} 0~127 ^{※2}	10
HMIリンクレジスタ ^{※2}	LLR	R/W	0~63	10
HMI 拡張入力 (ワード) ^{※4}	WLI	R	0	16
HMI 拡張出力 (ワード) ^{※4}	WLQ	R/W	0	16
HMI特殊データレジスタ	LSD	R/W	0~383	10

### コントロールデバイス

内部デバイス名	記号	R/W	アドレス範囲	表現進数
増設入力 ^{※5}	#WI	R	30、50、70、90	10
増設出力 ^{※5}	#WQ	R/W	30、50、70、90、110	10
内部リレー ^{※5}	#WM	R/W	0~780 ^{※6}	10
データレジスタ ^{※5}	#D	R/W	0000~2999	10
タイマ現在値 ^{※7}	TC	R/W	0~199	10
タイマ設定値 ^{※7}	TP	R/W	0~199	10
カウンタ現在値 ^{※7}	CC	R/W	0~199	10
カウンタ設定値 ^{※7}	CP	R/W	0~199	10
データレジスタ ^{※7}	D	R/W	0~3999	10
特殊データレジスタ ^{※7}	D	R/W	8000~8199	10



R/Wは、Read (リード) /Write (ライト) の略で、R/Wは読み出しおよび書き込みができます。Rは読み出し専用です。

- ※1 FT2J形、HG2J形のみ
- ※2 HG5G/4G/3G/2G-V形、HG4G/3G形、HG2G-5F/-5T形、HG1G/1P形のみ
- ※3 HG4G/3G形、HG2G-5F形のみ
- ※4 HG1P形のみ
- ※5 HG5G/4G/3G/2G-V形のみ
- ※6 20の倍数のみ
- ※7 FT2J形のみ

## 9.2 デバイスアドレスをモニタする

- 1 デバイスアドレスモニタでモニタするデバイスタイプをタップします。  
デバイスアドレス詳細画面が表示されます。



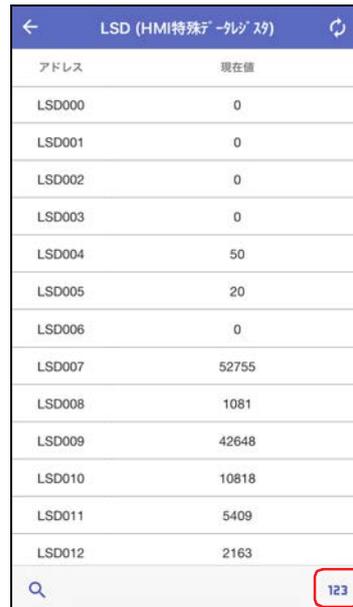
- 2 🔍 (先頭デバイスアドレス) をタップします。

アドレス	現在値
LSD000	0
LSD001	0
LSD002	0
LSD003	0
LSD004	50
LSD005	20
LSD006	0
LSD007	52755
LSD008	1081
LSD009	42648
LSD010	10818
LSD011	5409
LSD012	2163
🔍	123

- 3 表示するデバイスアドレスの先頭デバイスアドレス番号を入力し、[表示] をタップします。



4 123 (表示形式) をタップします。



アドレス	現在値
LSD000	0
LSD001	0
LSD002	0
LSD003	0
LSD004	50
LSD005	20
LSD006	0
LSD007	52755
LSD008	1081
LSD009	42648
LSD010	10818
LSD011	5409
LSD012	2163

5 デバイス アドレスの現在値の表示形式を切り替え、[完了] をタップします。



アドレス	現在値
LSD010	11032
LSD011	5516
LSD012	2206
LSD013	8217
LSD014	18
LSD015	37
LSD016	22
LSD017	7

完了

10進(W)  
16進(W)

**6** デバイスアドレスの現在値をタップし、値を変更します。

アドレス	現在値
LSD010	33
LSD011	22
LSD012	14166
LSD013	8216
LSD014	3

完了

1	2 ABC	3 DEF
4 GHI	5 JKL	6 MNO
7 PQRS	8 TUV	9 WXYZ
	0	<X>



パソコンとプログラマブル表示器をUSB接続でモニタしていると、WindEDIT Liteで同時にモニタできません。

**3**



## B

### Bluetooth通信

- 接続先の機器を削除する ..... 1-18
- 接続先の機器を追加する ..... 1-16

## P

- PLCの運転状態を変更する ..... 2-9

## R

- RUN/STOP操作 ..... 3-10

## W

- WindEDIT Liteのインストール ..... 1-3
- WindEDIT Liteの起動 ..... 1-4

## Z

### ZLDプロジェクト ファイル

- アップロード ..... 2-13
- ダウンロード ..... 2-10

### ZNVプロジェクト ファイル

- アップロード ..... 3-16
- ダウンロード ..... 3-11

### ZNXプロジェクト ファイル

- ダウンロード ..... 3-13

## あ

### アップロード

- PLC ..... 2-13
- ZLDプロジェクト ファイル ..... 2-13
- ZNVプロジェクト ファイル ..... 3-16
- 外部メモリのファイル ..... 3-18
- ファイルやフォルダー ..... 2-7, 3-8
- プログラマブル表示器 ..... 3-16
- 履歴データ ..... 3-17

- アプリ内フォルダーの管理画面 ..... 1-20

## い

### イーサネット通信

- 接続先の機器を削除する ..... 1-13
- 接続先の機器を追加または変更する ..... 1-11

## お

- お知らせ画面 ..... 1-19

## か

### 外部メモリ

- アップロード ..... 3-18

- クリア ..... 3-22
- ダウンロード ..... 3-15
- フォーマット ..... 3-23

## く

### クリア (プログラマブル表示器)

- アラーム履歴のデータ ..... 3-14, 3-20
- 外部メモリのファイル ..... 3-22
- キーボードデバイスの値 ..... 3-14
- コントロール機能のエラー ..... 3-20
- コントロール デバイスの値 ..... 3-20
- 操作履歴のデータ ..... 3-14, 3-20
- データ ..... 3-20
- データ履歴のデータ ..... 3-14, 3-20

## し

- システム ソフトウェアとOSを強制的にダウンロードする ..... 3-14
- システム ソフトウェアを強制的にダウンロードする ..... 3-12

## す

- スタート/ストップ操作 ..... 2-9
- ステータスの表示
  - PLC ..... 2-3
  - プログラマブル表示器 ..... 3-3

## せ

- 接続設定画面 ..... 1-8

## た

- 対応OS ..... 1-1
- 対応機種 ..... 1-1
- ダウンロード
  - PLC ..... 2-10
  - ZLDプロジェクト ファイル ..... 2-10
  - ZNVプロジェクト ファイル ..... 3-11
  - ZNXプロジェクト ファイル ..... 3-13
  - システム ソフトウェア ..... 2-11, 3-12
  - システム ソフトウェアとOS ..... 3-14
  - ダウンロード後、自動的にラダー プログラムを  
実行する ..... 3-12
  - ファイルやフォルダー ..... 2-5, 3-6
  - ファイルを外部メモリへ ..... 3-15
  - フォントおよび漢字辞書データ ..... 3-12
  - プログラマブル表示器 ..... 3-11

## つ

- 通信先Bluetoothデバイス一覧画面 ..... 1-15
- 通信先一覧画面 ..... 1-10
- 通信先設定画面 ..... 1-11

---

## て

---

デバイス アドレス モニタ	
PLC.....	2-15
対応デバイス アドレス.....	2-15, 3-25
プログラマブル表示器.....	3-24

## と

---

登録モニタ	
PLC.....	2-20
対応デバイス アドレス.....	2-20
デバイス アドレス グループ名を変更する.....	2-21
デバイス アドレス グループを削除する.....	2-22
デバイス アドレス グループを作成する.....	2-21
デバイス アドレスを登録してモニタする.....	2-23

## ふ

---

ファイルやフォルダー	
アップロード.....	2-7, 3-8
ダウンロード.....	2-5, 3-6
表示と操作.....	2-4, 3-5
フォーマット	
PLC.....	2-14
プログラマブル表示器.....	3-23
フォントおよび漢字辞書データをダウンロードする.....	3-12

## へ

---

ヘルプ画面.....	1-22
------------	------

## め

---

メイン画面	
PLC.....	2-1
プログラマブル表示器.....	3-1

## ら

---

ラダー プログラムのRUN/STOP状態を切り替える.....	3-10
---------------------------------	------

# IDEC株式会社

〒532-0004 大阪市淀川区西宮原2-6-64

 [jp.idec.com](http://jp.idec.com)



お問合せはこちらから

- ・本マニュアル中に記載されている社名及び商品名はそれぞれ各社が商標または登録商標として使用している場合があります。
- ・仕様、その他記載内容は予告なしに変更する場合があります。

B-2006(6) 本マニュアル記載の情報は、2024年2月現在のものです。

